

# Annual report in fiscal year 2020

Archaeological Research office on the Campus,  
Tohoku University

# 東北大学埋蔵文化財調査室

# 年次報告2020



図書館での展示「川内キャンパスの過去を探る－川内駅前の発掘調査から－」の様子

**東北大学埋蔵文化財調査室  
年次報告2020**



# 東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2020

## 目次

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| I. 巻頭言                               | 1  |
| II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要                  | 2  |
| 1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査                 | 2  |
| 2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設                    | 5  |
| 3. 運営委員会・調査部会                        | 6  |
| III. 2020年度（令和2年度）事業の概要              | 7  |
| 1. 埋蔵文化財調査の概要                        | 7  |
| (1) 川内北地区の調査                         | 8  |
| (2) 川内南地区の調査                         | 8  |
| (3) 青葉山地区の調査                         | 23 |
| (4) 富沢地区の調査                          | 23 |
| 2. 遺物整理作業                            | 37 |
| (1) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点（BK15）の整理作業  | 37 |
| (2) 青葉山E遺跡第10次調査（AOE10）の整理作業         | 37 |
| 3. 年次報告・調査報告の刊行                      | 37 |
| 4. 保存処理事業                            | 37 |
| 5. 資料保管状況                            | 38 |
| 6. 研究活動                              | 39 |
| (1) 受託研究・共同研究等                       | 39 |
| (2) 学会発表等                            | 39 |
| (3) 科学研究費等外部資金採択状況                   | 39 |
| 7. 教育普及活動                            | 40 |
| (1) 非常勤講師                            | 40 |
| (2) 取材・協力等対応                         | 40 |
| (3) 構内の文化財・当室の業務内容の紹介                | 40 |
| (4) 専門知識・技術の提供等を通じた授業・社会貢献           | 40 |
| (5) 展示事業                             | 40 |
| (6) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等                | 41 |
| (7) 外部からの派遣依頼                        | 41 |
| (8) その他の広報活動                         | 41 |
| 《引用・参考文献》                            | 42 |
| IV. 資料                               | 43 |
| 1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程              | 43 |
| 2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2020年度）     | 45 |
| 3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2020年度） | 45 |
| 4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧               | 46 |
| 報告書抄録                                | 49 |



## 例 言

1. 本年次報告書は、東北大学埋蔵文化財調査室が2020年度に行った埋蔵文化財調査の概要、その他の事業についてまとめたものである。
2. 本年次報告書の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。
3. 図1・2の背景の元図は、それぞれ、国土地理院発行の、2万5千分の1地形図『仙台北北部』・『仙台西南部』、1万分の1地形図『青葉山』を使用した。
4. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のよう

例 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 1 … 『年報』 1  
『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』 2008 … 『年次報告』 2008  
『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』 1 … 『調査報告』 1

5. 挿図・写真等の方位は、それぞれに示した。
6. 遺物の実測図および写真の縮尺は、それぞれに示した。
7. 挿図中の表記は、特に指示しないものについては、以下の通りである。これら以外については、それぞれに表記している。

 石     遺物     構造物等

## I. 巻頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2020を刊行いたします。本書では、当室が2020年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、およびその他の事業の概要をとりまとめて報告しています。また、当年度に実施した発掘調査の中で、遺構・遺物等が少ない場合については、本書で報告することとしました。

2020年度は、当初より新型コロナウイルス感染症対策により様々な事業が休止状態となりましたが、年度の後半には一時沈静し、事業を再開することができました。この時期には、仙台城跡二の丸と芦ノ口遺跡において確認調査を2件行いました。また、多数の立会調査も実施することができました。

確認調査の2件は、それぞれ川内南地区・富沢地区の基幹・環境整備（給排水設備）に伴うものですが、これは経年劣化した給排水管等の再生・入替えのための工事となります。立会調査の原因となったほかの工事も、建物や管等の改修工事が多く、次年度以降も同様の傾向が続くものと考えられます。

また、これまでの発掘調査の成果を紹介するために、本学附属図書館のスペースをお借りした展示活動を継続して実施しています。2020年度秋には、新型コロナウイルス感染症対策のため学内関係者のみを対象としたものではありませんでしたが、図書館にて仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点調査に関する展示を行いました。同地点の報告書は、2019年度に2分冊目を刊行して全ての事業を終了としましたが、その内容をわかりやすく伝えるため、この展示を企画しました。

このような展示により、本学の教職員・学生のみならず、広く一般の方々に、本学の所在する敷地の歴史的背景を知ってもらいたく考えております。近年、文化財への関心が高まり、その公開・活用を進めていくことが求められています。埋蔵文化財調査室におきましても、このような展示事業などを通じて、収蔵資料の利活用を進めていきたいと考えています。

学内外の関係機関や関係者の多大なご協力やご配慮を頂いて、円滑に事業を進めることができいております。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力を宜しくお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 藤澤 敦

## II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要

### 1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、各キャンパスに加え多くの研究施設があり、これらの構内には多くの埋蔵文化財が存在する（表1、図1）。とくに川内地区は、ほぼ全域が仙台城跡の二の丸と武家屋敷地区にあたっている（図2）。

これらの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）において掘削を伴う工事を行う場合、文化財保護法により届出が義務づけられている。工事の掘削で遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更により遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、発掘調査を行い、記録を作成することで、次善の策とする記録保存という方法が取られている。また、この記録保存のための発掘調査は、経費を原因者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

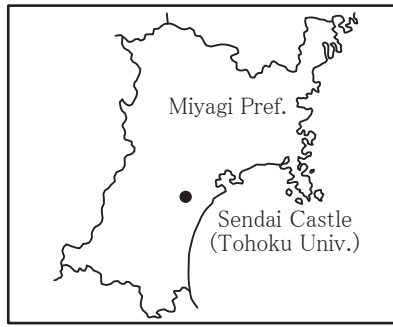
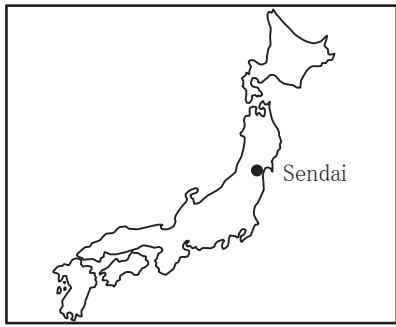
構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に十分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。また、学内に調査組織を設けることにより、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られるという側面もある。

東北大学においても、施設整備を円滑に行うため、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的として、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大学構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が実施してきた。1994年度には、調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置された。2006年度には、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へ改組された。そして、2017年には学内共同教育研究施設等へ再度改組され、事業を引き継いでいる。

表1 東北大学構内の遺跡

| 団地名  | 所在地住所            | 遺跡名          | 県遺跡番号 | 時代             | 備考                     |
|------|------------------|--------------|-------|----------------|------------------------|
| 川内1  | 仙台市青葉区川内27-1・41他 | 仙台城跡         | 01033 | 近世             | 二の丸地区・武家屋敷地区・御裏林地区     |
|      | 仙台市青葉区川内12-2     | 川内古碑群        | 01386 | 鎌倉             | 弘安10年(1287)・正安4年(1302) |
|      | 仙台市青葉区川内41       | 川内B遺跡        | 01565 | 縄文・近世          |                        |
| 青葉山2 | 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3   | 青葉山B遺跡       | 01373 | 縄文・弥生<br>古代    |                        |
|      | 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3   | 青葉山E遺跡       | 01443 | 縄文・弥生<br>古代    |                        |
| 青葉山3 | 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1 | 青葉山C遺跡       | 01442 | 旧石器            |                        |
| 富沢   | 仙台市太白区三神峯一丁目101  | 芦ノ口遺跡        | 01315 | 縄文・弥生<br>古墳・古代 |                        |
| 川渡   | 大崎市鳴子温泉大口字蓬田     | 上川原遺跡        | 36006 | 縄文             |                        |
|      | 大崎市鳴子温泉大口字町      | 丸森遺跡         | 36038 | 縄文             |                        |
|      | 大崎市鳴子温泉大口字町      | 東北大農場2・3号畑遺跡 | 36098 | 縄文             |                        |
|      | 大崎市鳴子温泉大口字町西     | 町西遺跡         | 36106 | 弥生             |                        |
| 小乗浜  | 牡鹿郡女川町小乗浜        | 小乗浜B遺跡       | 73021 | 縄文             | 宿舎裏の山林部分               |





Sites in Tohoku University

- 1 : Sendai Castle Ruins
- 2 : Kawauchi steles
- 4 : Kawauchi B Site
- 6 : Aobayama B Site
- 7 : Aobayama E Site
- 8 : Aobayama C Site
- 11 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡 8 : 青葉山C遺跡
- 9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 芦ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六日如来の碑 14 : 葛岡城跡 15 : 郷六城跡
- 16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六遺跡 20 : 松ヶ丘遺跡 21 : 向山高裏遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡
- 24 : ニツ沢横穴墓群 25 : 萩ヶ岡B遺跡 26 : 八木山緑町遺跡 27 : ニツ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 青山二丁目B遺跡
- 30 : 杉土手(鹿除土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳 33 : 二塚古墳 34 : 富沢遺跡 35 : 泉崎浦遺跡 36 : 金洗沢古墳 37 : 土手内窯跡
- 38 : 土手内遺跡 39 : 土手内横穴墓群 40 : 三神峯遺跡 41 : 金山窯跡 42 : 三神峯古墳群 43 : 富沢窯跡 44 : 裏町東遺跡 45 : 裏町古墳
- 46 : 原東遺跡 47 : 原遺跡 48 : 八幡遺跡 49 : 後田遺跡 50 : 町遺跡 51 : 紙流山遺跡 52 : 御堂平遺跡 53 : 上野山遺跡 54 : 北前遺跡
- 55 : 佐保山東遺跡 56 : 川内C遺跡 57 : 経ヶ峰伊達家墓所 58 : 川内武家屋敷遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡



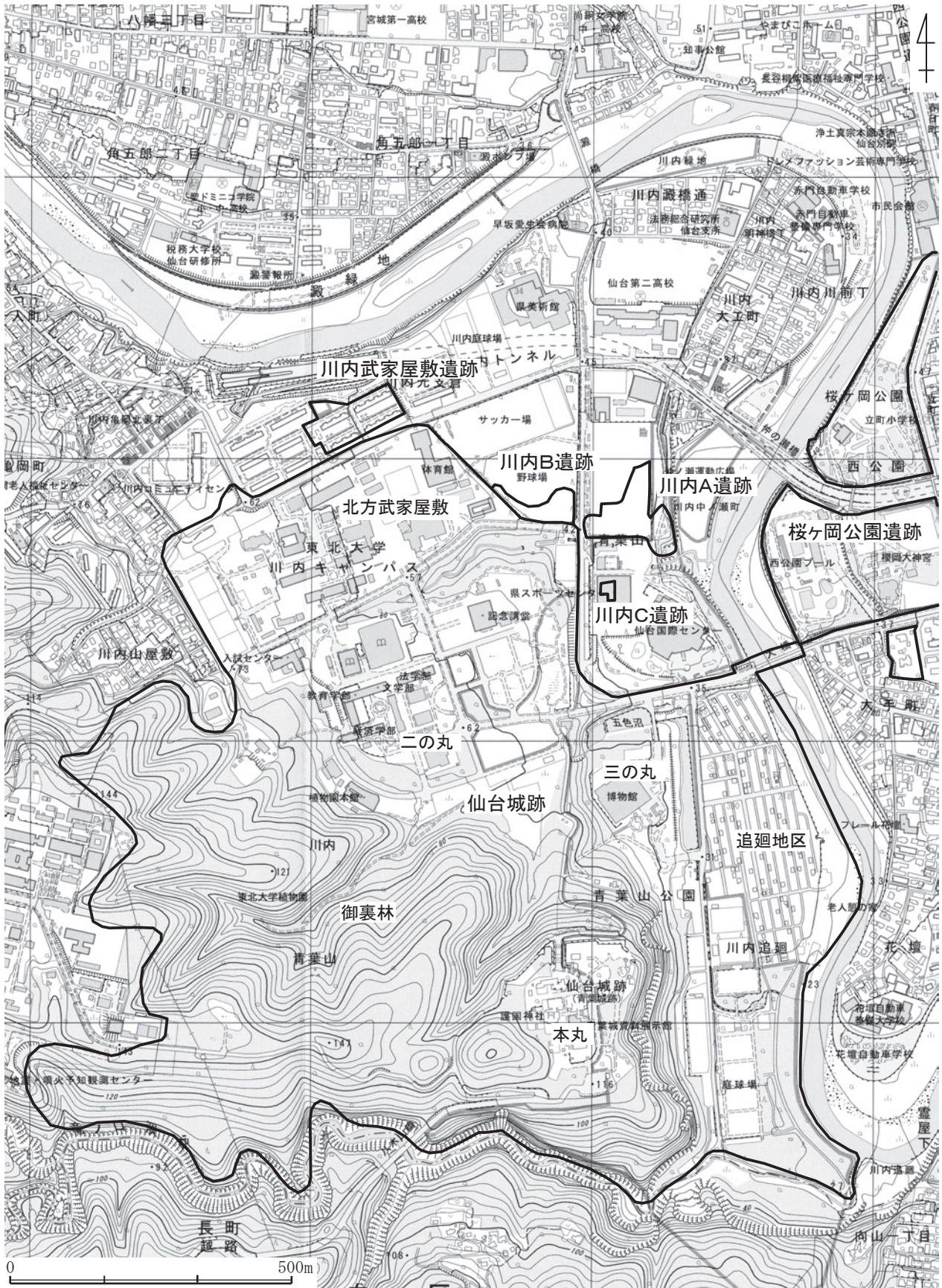


図2 仙台城と二の丸の位置



## 2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

当室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および保存処理を含めた整理作業を担当する作業員5名（時間雇用職員通年3名、半年2名）からなっている（表2）。本年度も規模の大きな発掘調査がなかったが、その様な調査を実施する際には、発掘調査に従事する作業員（時間雇用職員）を雇用している。

当室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の人件費のほか、複写費貸借料費等の役務費、自動車維持費、消耗品費、福利厚生費等である。

発掘調査が実施される場合は、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。その中から、作業員賃金や機器類リース費、消耗品費などを支出することになる。

また、発掘調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員4名の賃金も、ここから支弁されている。

当室の主要な業務は、2011年度より片平キャンパス本部棟4（D08）の1階（212㎡）にて実施している。その中に、室長室兼事務室、調査員室、作業室、予備室、収蔵庫を設置している。この収蔵庫は、出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料や、これまでの調査図面や写真フィルムなどの重要な資料を保管している。作業室は、実測などの作業をはじめとする整理作業を行う部屋で、報告書などの文献を保管している書架も置いている。予備室は、写真撮影や小規模な打ち合わせなどを行う補助的なスペースとしている。

現在、これらの施設の中で課題となっているのは、収蔵庫に保管している過去の調査図面やスライド・ネガフィルム等の劣化に関する問題である。収蔵庫は、通常の教室を改修したものであり、太陽光は遮断できる状況ではあるものの、収蔵庫として適切な環境とは言えない。そのため、これらの資料の経年劣化は避けられないものと考え、アナログ資料のデジタル化作業を進めている。最も良い対策は、収蔵庫を適切な環境となるように改修すべきであるが、予算などの都合上やむを得ないと考えている。今後、収蔵庫の温湿度のデータをとりつつ注意深く経過を観察する必要がある。

また、2001年度より木製品・金属製品等の保存処理作業を行う保存処理作業棟（プレハブ平屋建・79㎡）が、同じ片平キャンパス内の生命科学研究科本館（D05）の南西側に設置された。その他には、保存資料作業棟北側のガレージの一部（34㎡）を使用し、当室の公用自動車を保管しているほか、発掘調査用機材も保管している。2003年度には、出土遺物の収蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202㎡）を保存処理作業棟の南側に設置し、報告書掲載以外の遺物等を保管している。今後は、東日本大震災以降において急増した発掘調査の整理作業の進行と共に、これらの遺物の保管場所は手狭になることを予想しており、収蔵遺物の密集化、新たなスペースの確保等が必要となっている。

表2 2020年度埋蔵文化財調査室職員

| 職名     | 氏名等                                     | 備考                           |
|--------|---|------------------------------|
| 調査室長   | 総合学術博物館 藤澤 敦                            | 併任                           |
| 文化財調査員 | 特任准教授 菅野 智則                             |                              |
|        | 専門職員 柴田 恵子                              |                              |
|        | 専門職員 石橋 宏                               |                              |
| 事務補佐員  | 時間雇用職員 武山 里菜                            | 埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員          |
| 整理作業員  | 時間雇用職員 千葉直美、氏家千恵子、櫻岡 悠、佐々木裕美子、池田光恵、大石亜依 | 全学的基盤経費を財源とした職員6名（通年4名、半年2名） |

### 3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、埋蔵文化財調査室規程第6条に基づき運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、同規定第9条に基づいて運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されている。当調査室は、これらの委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会を年度当初に一回開催し、年間の事業予定・予算などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため対面での運営委員会は実施せず、メール審議とした。審議は、2020年5月13日に開催案内をメールにて連絡し、5月15日に終了とした。運営委員会の議事内容は、以下の通りである。この運営委員会では、下記のような内容が審議された。

埋蔵文化財調査室運営委員会（2020年5月13日～15日、メール審議）

#### 審議事項

- (1) 埋蔵文化財調査室の室長について
- (2) 令和元年度埋蔵文化財調査結果及び令和2年度の埋蔵文化財調査計画
- (3) 令和元年度調査室運営費決算及び令和2年度調査室運営費予算
- (4) 2020年度の整理作業結果及び令和2年度の整理作業計画
- (4) その他

#### 報告事項

- (1) 広報・活用事業
- (2) その他

### Ⅲ. 2020年度（令和2年度）事業の概要

#### 1. 埋蔵文化財調査の概要

2020年度は、確認調査2件、立会調査13件を実施した（表3）。本学敷地内の立会調査に関しては、2009年度途中から、仙台市教育委員会の指示に従い、当室が立会調査を行っている。その他には慎重工事2件があった。

川内北地区では、保健管理センター前駐車場の看板及び支柱の入れ替え工事に伴う立会調査のほか、厚生会館東側の雨水管改修工事に伴う立会調査と、サークル部室棟南側のマンホール蓋交換に伴う立会調査があった。

川内南地区では、老朽化した給排水の設備工事に伴い、既存管入れ替え箇所は工事立会とし、一部の新規掘削箇所については遺構等の確認のための発掘調査を行った。また、前年度より引き続き、川内南地区雨水排水改修工事に伴う立会調査を行った（2019-6）。それと関連し、経済学部研究棟南側の雨水の滞留箇所解消に伴う雨水枡新設工事の工事立会を行った。この調査は、近年多発している集中豪雨や規模の強い台風等に対応するためのものである。その他には文教研究棟男子トイレ污水管修繕工事に伴う立会調査があった。

青葉山地区-川内地区間では、川内から青葉山に送水する老朽化した給水管の入れ替え工事に伴う立会調査と、2019年10月12日に日本に上陸した台風19号による遊歩道崩落土の除去工事に伴う立会調査があった。青葉山地区では、建築実験所屋外排水管新設工事と体育館改修に伴う立会調査を実施した。

富沢地区では、川内南地区と同様に老朽化した給排水の設備工事に伴う確認調査と立会調査のほか、電子光理学研究センターのフェンス新設工事に伴う立会調査があった。

東日本大震災以後、大規模な開発事業が一段落し、建物等の施設改修や自然災害に対する備えに関する事業が増えている。今後、このような状況が続くものと想定できる。学内関連機関のほか、仙台市教育委員会、宮城県教育委員会等と緊密に協議しながら、埋蔵文化財を保護するために調整・対応を推進していきたい。

表3 2020年度調査概要表

| 調査の種類 | 地区         | 調査地点(略号)                 | 原因                              | 調査期間                                    | 面積(m <sup>2</sup> ) |
|-------|------------|--------------------------|---------------------------------|---|---------------------|
| 確認調査  | 富沢         | 電子光理学センター南側 (TM11)       | (富沢団地) 基幹・環境整備(給排水設備)工事         | 2020/8/24-9/4                           | 231.15              |
|       | 川内南        | 植物園西側 (NM19)             | (川内団地) 基幹・環境整備(給排水設備)工事         | 2020/12/1-25                            | 105.43              |
| 立会調査  | 川内南        | 附属図書館周辺 (2019-6)         | (川内1) 川内南地区雨水排水改修工事Ⅳ            | 2020/6/23・29-7/3・7-9・13-15・18・20-22     | -                   |
|       | 青葉山        | 青葉山-川内南間 (2020-1)        | (青葉山1) 基幹・環境整備(給排水設備)工事         | 2020/11/9・11・12・20、12/8・10・14           | -                   |
|       | 青葉山        | 建築実験所東側 (2020-2)         | (青葉山1) 建築実験所屋外排水管新設工事           | 2020/7/2・7・8                            | -                   |
|       | 青葉山        | 青葉山体育館 (2020-3)          | (青葉山1) 青葉山体育館改修その他工事            | 2020/9/1・2・15                           | -                   |
|       | 川内北        | 保険管理センター北側 (2020-4)      | (川内1) 保険管理センター前駐車場看板工事          | 2020/7/7                                | -                   |
|       | 富沢         | 電子光理学センター東側フェンス (2020-6) | (富沢) 電子光理学センターフェンス新設工事          | 2020/10/28                              | -                   |
|       | 川内南        | 経済学部研究棟南側 (2020-8)       | (川内1) 川内南地区雨水枡取設工事              | 2020/10/29                              | -                   |
|       | 川内北        | 厚生会館東側 (2020-9)          | (川内1) 厚生会館東側雨水管改修工事             | 2020/11/6                               | -                   |
|       | 川内南<br>青葉山 | 川内南-青葉山間遊歩道 (2020-10)    | (川内1) 災害復旧(法面)工事                | 2020/11/25・26、2021/2/2・8                | -                   |
|       | 富沢         | 電子光理学センター周辺 (2020-12)    | (富沢団地) 基幹・環境整備(給排水設備)工事         | 2020/12/11・2021/2/16-19・22              | -                   |
|       | 川内南        | 文・教研究棟北側 (2020-13)       | (川内1) 文教研究棟1階男子トイレ污水管修繕工事       | 2021/1/12・13                            | -                   |
|       | 川内南        | 植物園西側 (2020-14)          | (川内団地) 基幹・環境整備(給排水設備)工事         | 2021/3/2-5・8-11・15-20・22-24・26-27・29-31 | -                   |
|       | 川内北        | サークル部室棟I南側 (2020-15)     | (川内1) サークル部室棟I南側マンホール蓋交換に伴う舗装工事 | 2021/3/17                               | -                   |



## (1) 川内北地区の調査

川内北地区では立会調査3件を実施している(図3)。

### ・保険管理センター前駐車場看板工事(2020-4)

駐車場前の案内看板について、老朽化により支柱が破損しているため、支柱を含む案内看板を撤去し、近傍に基礎を設置し、看板を入れ替えることになった。支柱の基礎設置に伴う掘削は浅く、表土の範囲内に収まり特に問題なかった。

### ・厚生会館東側雨水管改修工事(2020-9)

木の根等で厚生会館東側雨水管が閉塞し、近年雨水排水に支障が出ていた。その閉塞している部分の既存管の撤去と新規管の入れ替えに伴う立会調査を行った。既存管との入れ替え工事のため、掘削箇所は既存管掘削範囲に収まり、特に問題なかった。

### ・サークル部室棟I南側マンホール蓋交換に伴う舗装工事(2020-15)

サークル部室棟I南側に設置してあるマンホールに亀裂が入ったため、強度の高いマンホール蓋に交換するため、マンホール周囲の舗装を撤去することになった。基本的に掘削は舗装面の範囲に収まり、特に問題なかった。

## (2) 川内南地区の調査

川内南地区では確認調査1件、立会調査4件を実施している(図4)

### 確認調査

#### ・仙台城跡二の丸第19次調査(NM19:基幹・環境整備(給排水設備)工事)

今回の調査は、老朽化した給排水の設備工事を行うものである。この工事においては、その大部分は既存管の入れ替えや再生作業を行うことから、大規模な掘削は生じない。しかし、川内南キャンパス西側において部分的に新規掘削となる地点がある(図5)。これらの地点では、仙台城に関わる遺構・遺物が確認される可能性もあることから、事前の発掘調査が必要であると判断した。なお、その他の既存管部分の掘削などについては、立会調査として対応した(図4、2020-14)。

今回の調査では、掘削地点を北から1区~4区(合計105.43㎡)と命名した(図5)。重機による掘削は、12月1日に4区から開始し、順次3区、2区、1区と行った。最後の1区については、工事による掘削計画の確定が遅れたことから、12月23日に実施した。精査は、重機掘削が完了した区から順次進め、25日には調査を終了させた。

### 調査区周辺の概要

今回の調査区周辺は、旧陸軍第二師団期(以下、師団期と略する)に火薬庫が集中的に設置された地域にあたる。現代の地形図でも、その痕跡が多数認められる(図5)。そのため、この地域では火薬庫設置による大規模な造成により大きく攪乱を受け、近世の遺構面はすでに削平されていることが想定された。

図6に師団期の建物配置図(図6-1)と空撮写真(図6-2)を示した。この師団期の建物配置図は、旧日本陸軍の仙台師管経理部によって作成されたものである。この資料を紹介した佐藤雅也氏によると、その作成時期は1940年以降1943年7月以前と推定されている(佐藤2000)。空撮写真は、終戦3ヶ月前の1945年5月24日に米軍により撮影されたものである。この2つの図の対比から、終戦間近まで火薬庫が設置されていたことがわかる。火薬庫aと火薬庫cの土堤は、現在の地形図(図5)でも同じ形状が確認できるが、火薬庫bは形状が異なっており、終戦後に何らかの改変を受けたものと推定される。

また、今回の4区周辺では、以前の仙台城跡二の丸第6次調査(以下、NM6と略する:『年報』3)にて、仙台城二の丸西端の外塀の基壇と推定される石垣状遺構が確認されている。今回の調査区は、NM6より一段高い場所に位置している。



図3 川内北地区調査地点





図4 川内南地区調査地点



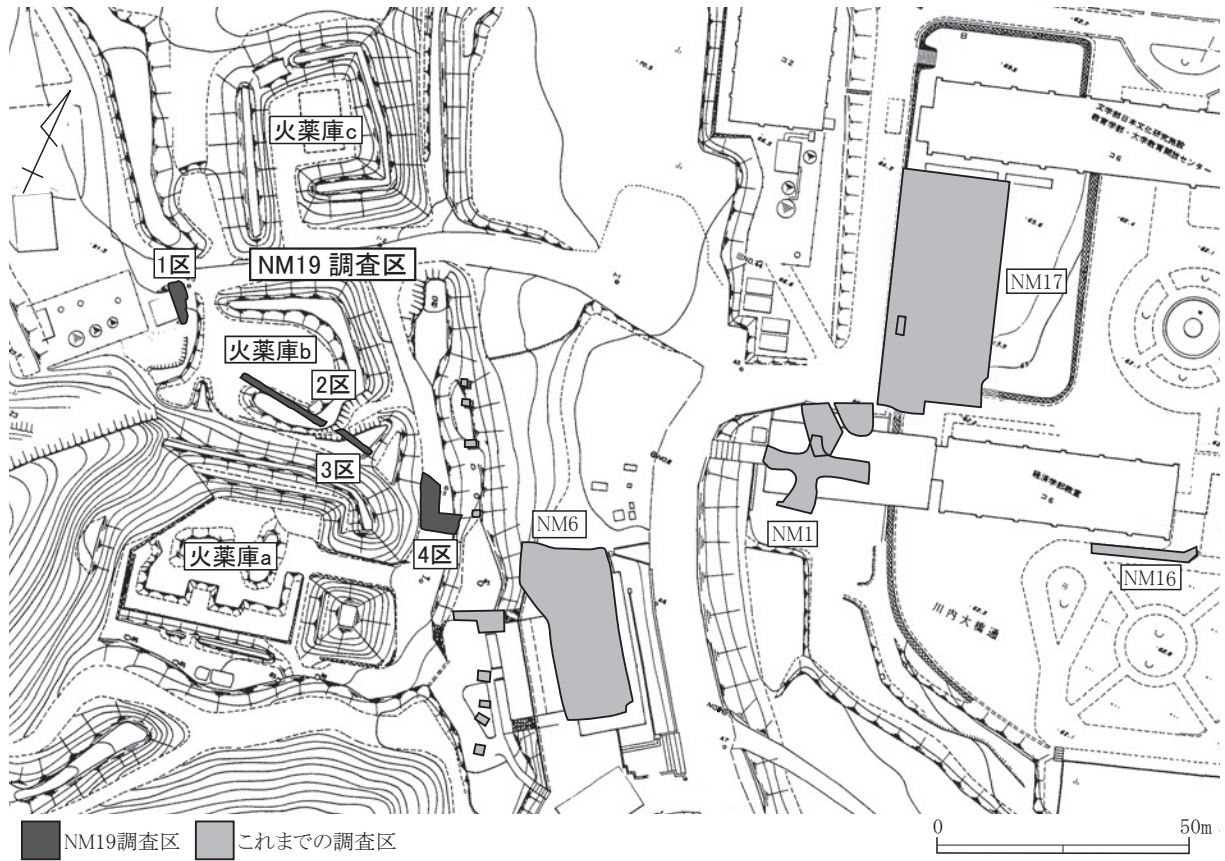
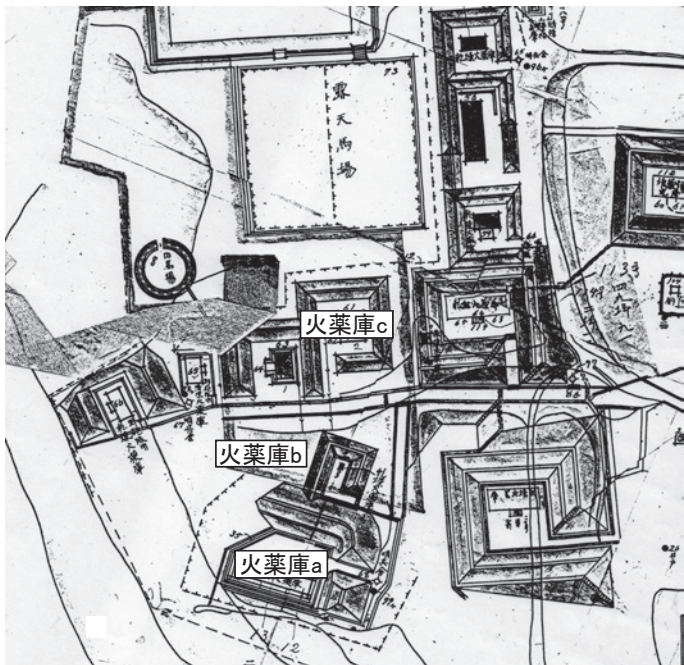
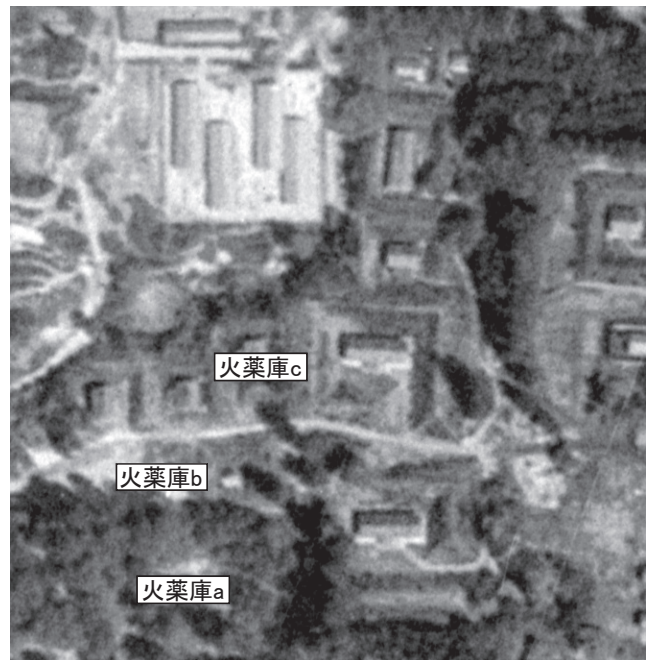


図5 NM19調査区とこれまでの調査区



1.第二師団建物配置図  
(1940~1943年:仙台歴史民俗資料館提供)



2.火薬庫周辺の空撮写真  
(1945年米軍撮影:国土地理院提供)

図6 火薬庫周辺の建物配置図・空撮写真

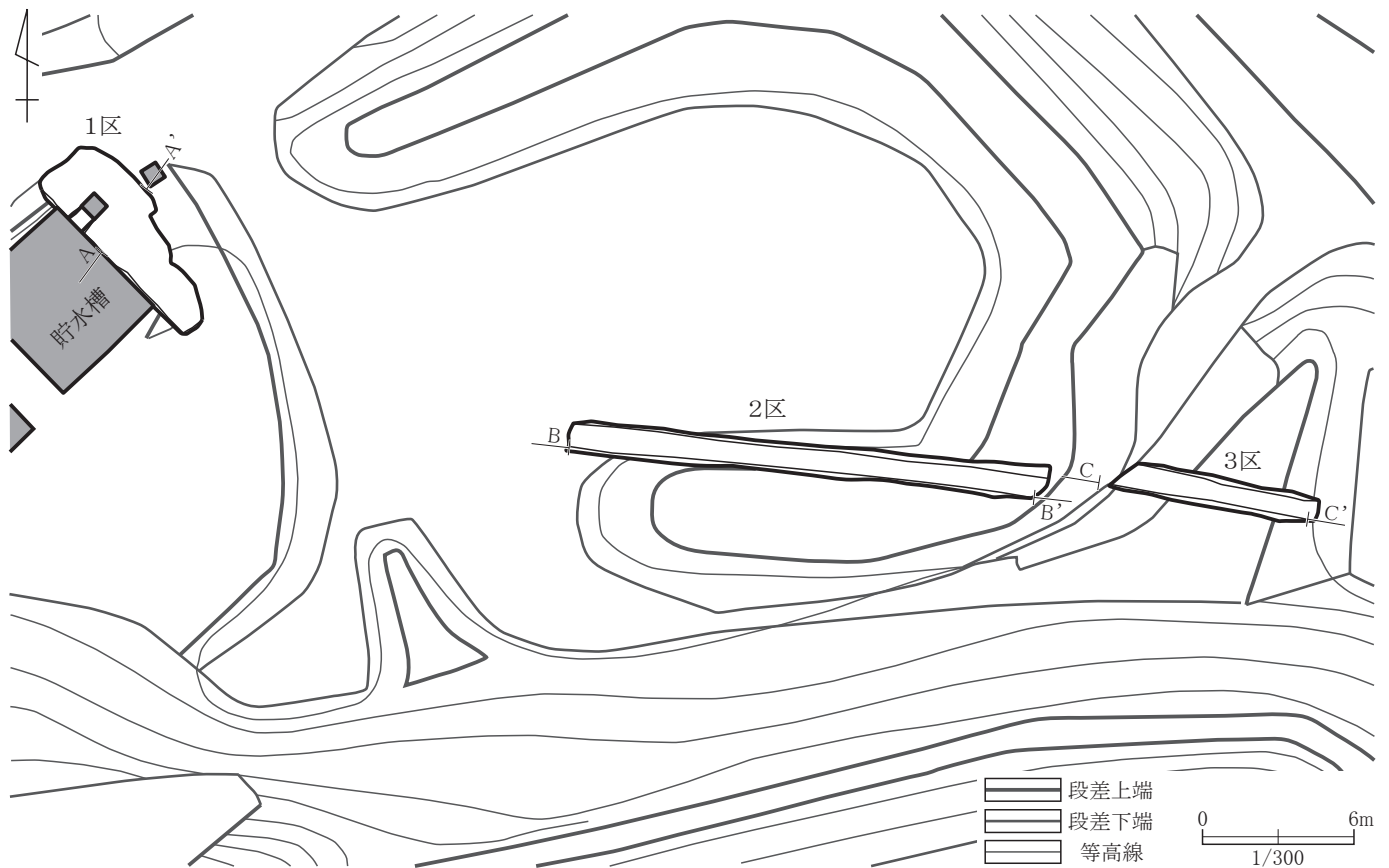


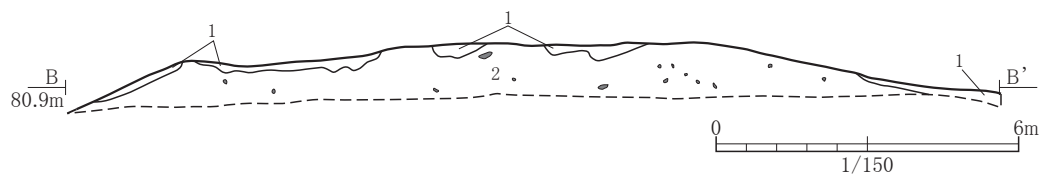
図7 1～3区平面図

①1区東西土層断面図



- 1層 H10YR4/1 褐灰色 シルト質粘土 粘性強 しまり弱 葉・根多く含む 表土
- 2層 H10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり弱 黒褐色シルト斑状に含む 径1-3cm程の円礫を少量含む
- 3層 H10YR4/2 灰黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 径1-5cmの礫を多く含む

②2区東西土層断面図



- 1層 H10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 表土
- 2層 H10YR5/8 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 径2-15cmの凝灰岩含む 白色・黄色土粒をわずかに含む 暗褐色土を斑状にわずかに含む 径2-5cmの炭化物をわずかに含む 木の根あり

③3区東西土層断面図



- 1層 H10YR6/4 にぶい黄橙色 粘土 粘性強 しまり弱を主体とする層 表土
- 2層 H10YR6/3 にぶい黄橙色 粘土 粘性中 しまり強 径1-5cm程の凝灰岩を少量含む 径1-3cmの円礫を多少含む 径1cm程の亜炭を極少量含む
- 3層 H10YR5/6 黄褐色 シルト質粘土 粘性強 しまり強 径0.5-1cm程の白色粒(凝灰岩)を斑点状に多く含む 径1-2cm程の円礫を少量含む
- 4層 H10YR6/6 明黄褐色 シルト質粘土 粘性弱 しまり強 径0.5-5cm程の凝灰岩をやや多く斑状に含む 亜炭の塊を少量含む
- 5層 H10YR6/4 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 径0.1cm-1cmの凝灰岩を斑状に少量含む 亜炭の塊を極少量含む

図8 NM19調査区1～3区土層断面図

## 調査区ごとの概要

### 1区 (19.42㎡、図7・8・14)

今回の調査区では、最も標高の高い場所に位置する。貯水槽の東側にあたり、周辺の地形より約30cm高く盛り上がっている状況であった。当初より、貯水槽建設に伴う盛土と推定してはいたが、念の為に給排水管設置に必要な高さまで盛り上がり部を掘削した。その結果、やはり貯水槽建設に伴う盛土であることが確認できた。遺物等は確認していない。

### 2区 (23.24㎡、図7・8・14・15)

火薬庫b付近の土堤状の部分に、排水管敷設のため東西のトレンチを設定し、排水管設置に必要な深さまで重機で掘り下げた。その結果、全てが既に攪乱を受けた土層であることが判明した。遺物等は確認していない。この結果から、この土堤状の部分は火薬庫bに伴う何らかの施設ではなく、周囲の改変に伴い廃棄された土壌と推定される。

### 3区 (9.2㎡、図7・8・15)

3区は、2区と同様に火薬庫b付近に位置し、火薬庫aから張り出す土堤状の部分となる。その結果、調査区西半の表土直下から、時期不明の盛土が確認できた。この盛土上部(図8-③、2～4層)は、非常に固く締まった土層で、盛土下部(5層)はやや柔らかい薄い褐色の均質な土層であった。それぞれの層には、亜炭塊を少量含んでいる。調査区東半の土層は、盛土上部の土質と類似するが、壁面を削るたびに崩落してしまう程に締りが無いことから、盛土上部が崩落したものと捉えた。遺物等は確認していない。

今回の調査で確認できた盛土は、火薬庫bの土堤の一部とも考えられるが、図5と図6を比較するならば、火薬庫bの位置とは一致しない。そのため、今回確認した盛土は、火薬庫bに伴う何らかの施設の一部とだけ捉えたい。

### 4区 (53.57㎡、図9～12・16～18)

#### 土層堆積状況 (図10～12)

土層の堆積は、大きく5層に分けることができる。1層は現在の表土層であり、部分的に砂利を含む。2層は灰や炭等により構成される堆積層であり、その層の特徴や川内地区でのこれまでの調査事例からすると、仙台空襲の片付けに伴う堆積層と判断できる。2層上部には、構造物の残骸と推定されるコンクリート主体の層や黄色粘土による整地層がある。2層下部は、炭・灰等を主体とし溶けた瓦やレンガ等を多く含む。3層は、粘土や砂礫による複数の薄い層である。粘土が主体となる層では、ラミナ状に堆積する様相が観察できた。4層は、砂礫層である。上部は固く締まった砂礫層で、調査区全体に広がる。下部は大きめの円礫を含み、締りは無い。5層は、調査区全体に広がる盛土層である。上層の盛土は、黒色土や礫等が多く混ざり、西端部平坦面から東端部に向けて傾斜する。

今回の工事にて新規掘削となる部分は、近代の層中に収まる事が判明したが、今後の調査のため部分的に下部を掘り下げ、近世以前の土層の確認を試みた。

#### 深堀1・3区

調査区南西部端にて5層の盛土を断ち割り、標高75.2m付近まで掘り下げたが、近世以前の堆積層や地山面は確認できなかった。また、この区の東側では、南北方向に伸び、直線的に立ち上がる痕跡を確認した。この部分は、締りがなく礫が多く混ざる。板等の構造材は現存していないが、区画あるいは土留のために何かを埋め込んだ痕跡と推定した。なお、深堀3区もほぼ同様の状況となるが、東側に調査区を伸ばしていないため、同様の痕跡は確認していない。

#### 深堀2区

東西のトレンチを設定して精査を行った。5層上面で溝を確認した。この溝は、大きさが5～10cm程の碎石



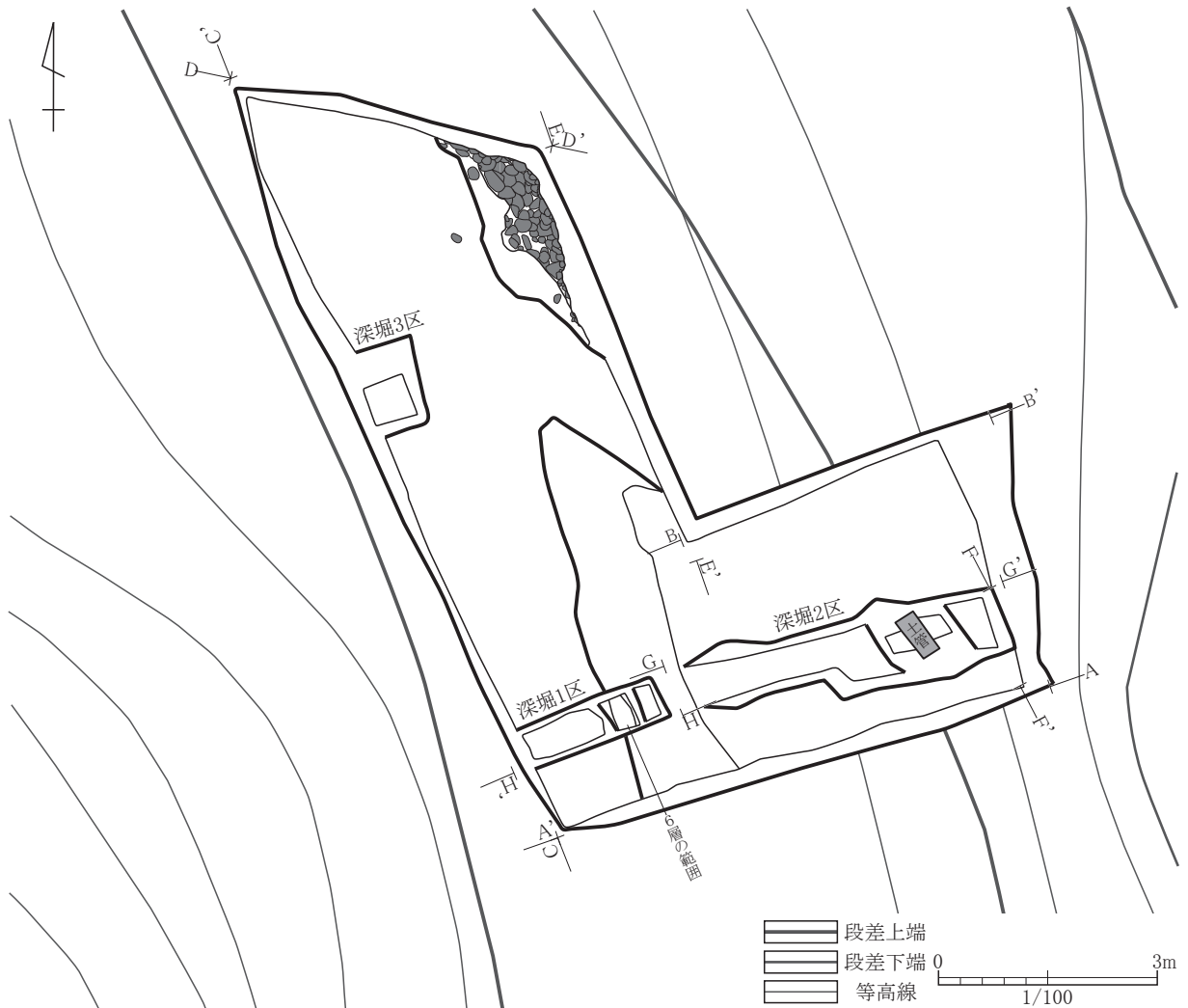
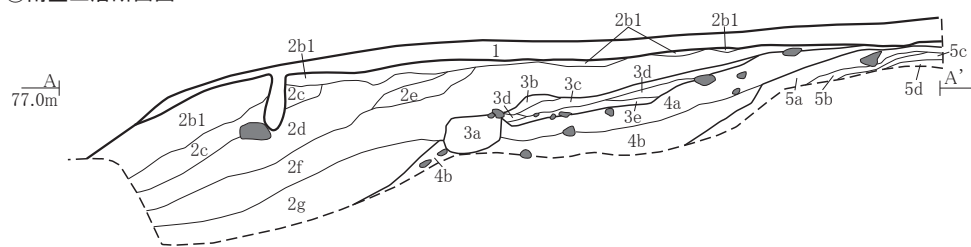


图9 4区平面图

①南壁土层断面图



②北東壁土层断面图

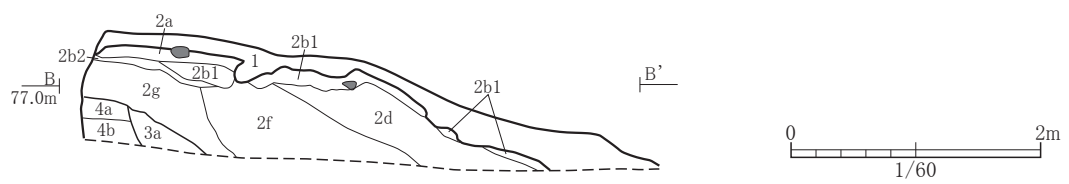
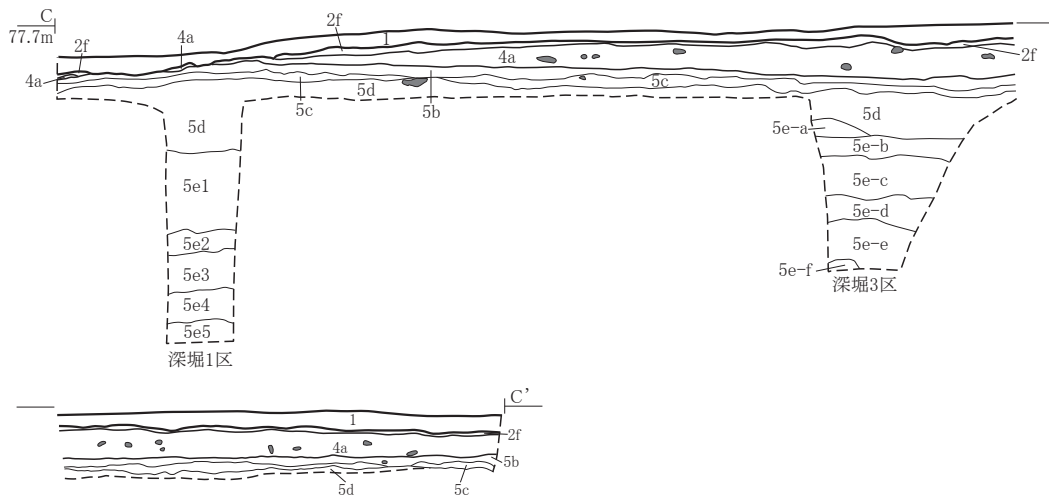
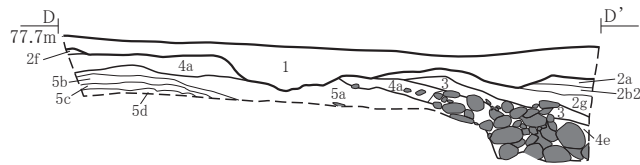


图10 4区土层断面图1

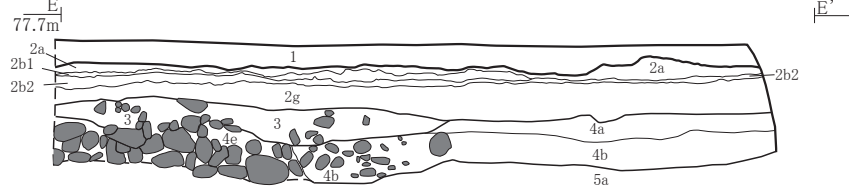
①西壁土层断面图



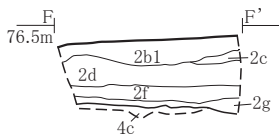
②北壁土层断面图



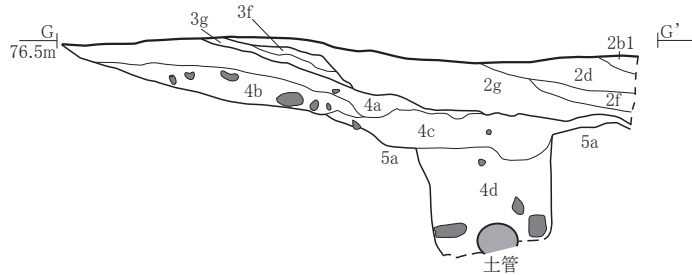
③東壁北側土层断面图



④深堀2区東壁土层断面图



⑤深堀2区北壁土层断面图



⑥深堀1区南壁土层断面图

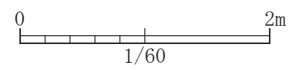
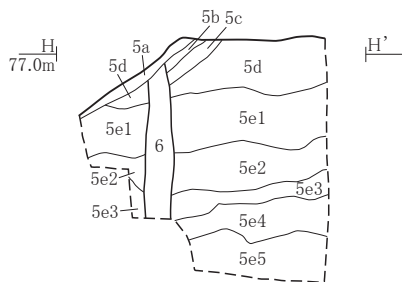


图11 4区土层断面图2



#### 4区基本土層・深堀2区

- 1層 表土層 H10YR2/1黒 シルト 粘性強 しまり中 部分的に現代のガラスを含む  
 2層 炭化物・灰等を多く含む層。  
 2a層 H10YR1.7/1黒 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1-3cmの円礫を含む 灰・炭化物を少量含む  
 2b1層 H10YR4/6褐 粘土 粘性強 しまり強 黒色シルトを斑状に含む 径1cm程の円礫をわずかに含む  
 2b2層 H10YR2/1黒 シルト 粘性弱 しまり中 褐粘土を層状に含む 灰粘土を部分的に含む  
 2c層 H10YR3/3暗褐 砂質シルト 粘性中 しまり弱 径2-10cm程のコンクリートを多量に含む  
 2d層 H10YR2/2黒褐 砂質シルト 灰・砂・炭化物を多量に含む  
 2e層 H10YR2/2黒褐 シルト質粘土 粘性なし しまり強 褐粘土を斑状に含む 炭化物・灰を少量含む  
 2f層 H10YR2/2黒褐 シルト質粘土 粘性中 しまり中 炭化物・灰を多く含む  
 2g層 H10YR3/1黒褐 砂 粘性なし しまり弱 炭化物・灰・溶解した物質を多量に含む  
 3層 4層上面に堆積した土層  
 3a層 H10YR3/3暗褐 砂 粘性弱 しまり中 径1-5cmの礫を多く含む 部分的に暗褐粘土を含む  
 3b層 H10YR4/4褐 砂 粘性なし しまり強  
 3c層 H10YR4/1褐灰 粘土 粘性強 しまり強 うすい粘土層と砂層を多く含む 炭化物を少量含む 径1-3cmの礫をやや多く含む  
 3d層 H10YR2/3黒褐 砂質シルト 粘性なし しまり強 径1-3cmの礫を多く含む  
 3e層 H10YR3/2黒褐 砂 粘性なし しまり強 径1-3cm程の礫を少量含む  
 3f層 H10YR4/3にぶい黄褐 粘土 粘性強 しまり弱 径1-5cmの円礫を多く含む  
 3g層 H10YR2/2黒褐 砂質シルト 粘性中 しまり中 径1-5cm程の円礫を多く含む  
 4層 砂礫を主体とした層  
 4a層 H10YR3/2黒褐 砂 粘性なし しまり強 径1-10cmの円礫を少量含む 亜炭を含む  
 4b層 H10YR5/3鈍い黄褐 砂 粘性なし しまり中 径1-20cm程の礫をやや多く含む  
 4c層 H10YR4/4褐 砂 粘性弱 しまり弱 径3-5cmの角礫(ガラス)の中に砂が入る  
 4d層 4cとほぼ同じ土質となるが、砂を含まず角礫が主体となる  
 4e層 H10YR3/2黒褐 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 径10-20cmの円礫(川原石)が多量に入る  
 5層 盛土層  
 5a層 H10YR5/6黄褐 粘土 粘性中 しまり強 上面に酸化鉄の層がある 径3-5mmの炭化物を含む 亜炭を含む 明黄褐粘土を斑状に含む  
 5b層 H10YR3/2黒褐 粘土 粘性強 しまり中 径0.5-1cmの円礫を少量含む  
 5c層 H10YR4/3にぶい黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1-3cmの円礫を上面に多く含む  
 5d層 H10YR5/6黄褐 粘土 粘性弱 しまり強 にぶい黄橙粘土を斑状に多く含む 3-10cm程の亜炭を含む 上面に酸化鉄の層あり

#### 深堀1区

- 5層 盛土層  
 5e1層 H10YR5/6黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1-5cmの円礫をやや多く含む 亜炭の塊をやや多く含む 黄・白色土粒を斑状に少量含む  
 5e2層 H10YR4/6褐 シルト 粘性弱 しまり強 径1-2cm程の礫を極少量含む 黄色・白色土粒を斑状に少量含む 木の根が入る  
 5e3層 H10YR5/8黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1-2cm程の礫を多く含む 亜炭の塊を少量含む 黄色・白色土粒を斑状に多く含む  
 5e4層 H10YR5/6黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり強 径1cmの礫を極少量含む 黄色・白色土粒を斑状に極少量含む 亜炭の塊を極少量含む  
 5e5層 H10YR4/6褐 粘土 粘性中 しまり強 径0.5-1cm程の礫を少量含む 炭化物を極少量含む  
 6層 H10YR6/8明黄褐 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 径1-15cm程の礫を多く含む 亜炭の塊を含む 区画・土留痕跡?

#### 深堀3区

- 5層 盛土層  
 5e-a層 H10YR5/8黄褐 シルト 粘性中 しまり強 径1-3cmの円礫を含む 径0.5-1cmの白色土粒を含む  
 5e-b層 H10YR5/4にぶい黄褐 シルト 粘性中 しまり強 径1-3cmの円礫をやや多く含む 亜炭の塊を少量含む 黄色・白色土粒を斑状に多く含む  
 5e-c層 H10YR6/8明黄褐 粘土 粘性中 しまり強 径1-10cmの円礫を少量含む 白色・黄色土粒をやや多く含む 亜炭の塊を少量含む  
 5e-d層 H10YR5/8黄褐 シルト 粘性弱 しまり強 径1-5cmの円礫を極少量含む 黄色・白色土粒を斑状にやや多く含む  
 5e-e層 H10YR5/3にぶい黄褐 粘土 粘性中 しまり強 径1-5cmの円礫を極少量含む 白色・黄色土粒を斑状にやや多く含む  
 5e-f層 H10YR6/4にぶい黄橙 シルト 粘性中 しまり強 亜炭の塊を少量含む 径1cm程の円礫を極少量含む 炭化物を極少量含む

図12 断面図土層注記

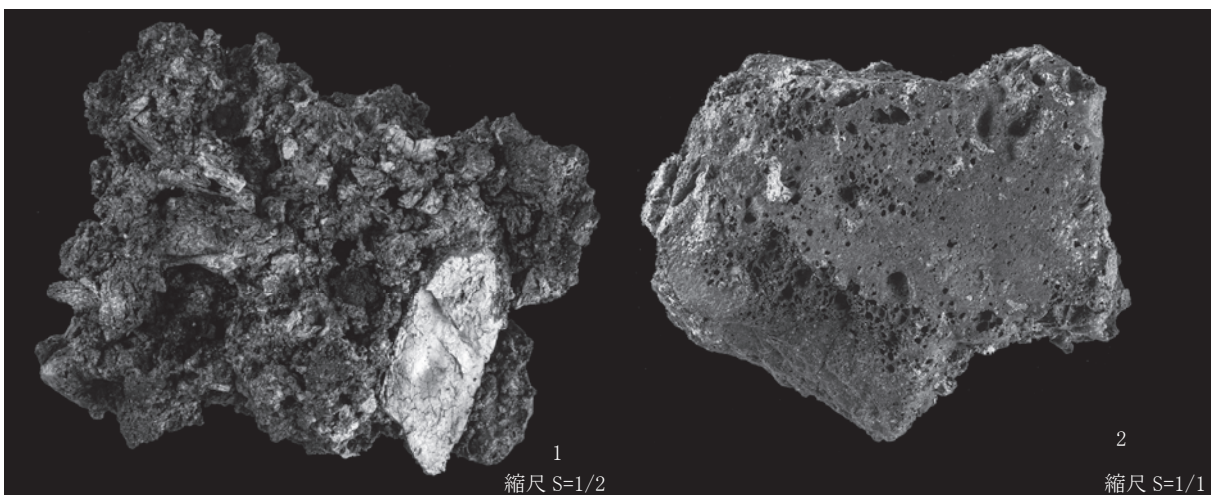


図13 仙台城跡二の丸第19地点出土遺物





1. 1区全景（南から）



2. 1区東西土層断面（北から）



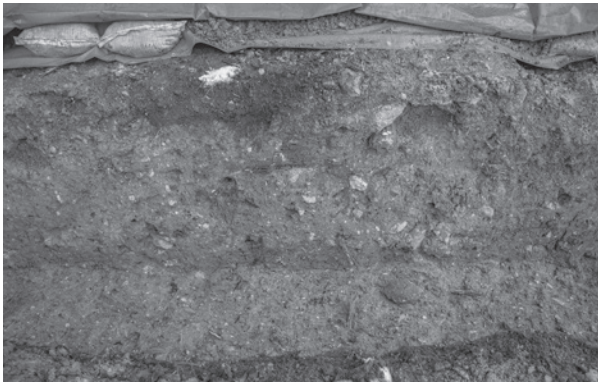
3. 2区全景（東から）



4. 2区東西土層断面東から1（北から）



5. 2区東西土層断面東から2（北から）



6. 2区東西土層断面東から3（北から）



7. 2区東西土層断面東から4（北から）

図14 仙台城跡二の丸第19地点1・2区調査状況





1. 2区東西土層断面東から5（北から）



2. 2区東西土層断面東から6（北から）



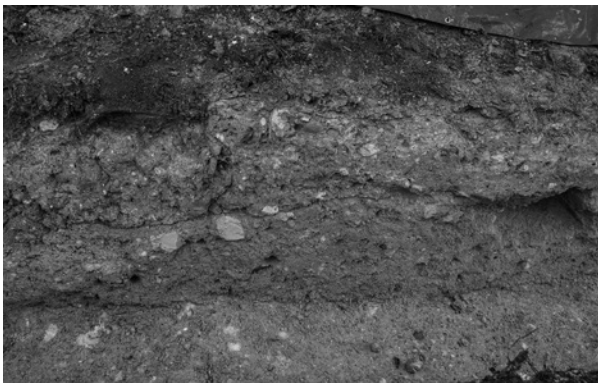
3. 3区全景（東から）



4. 3区東西土層断面東から1（北から）



5. 3区東西土層断面東から2（北から）



6. 3区東西土層断面東から3（北から）



7. 3区東西土層断面東から4（北から）

図15 仙台城跡二の丸第19地点2・3区調査状況





1. 4区全景（北から）



2. 4区全景（東から）



3. 4区西壁土層断面南から2（東から）



4. 4区西壁（深堀1区）土層断面南から1（東から）



5. 4区西壁土層断面南から3（東から）



6. 4区西壁土層断面南から4（東から）

図16 仙台城跡二の丸第19地点4区調査状況1





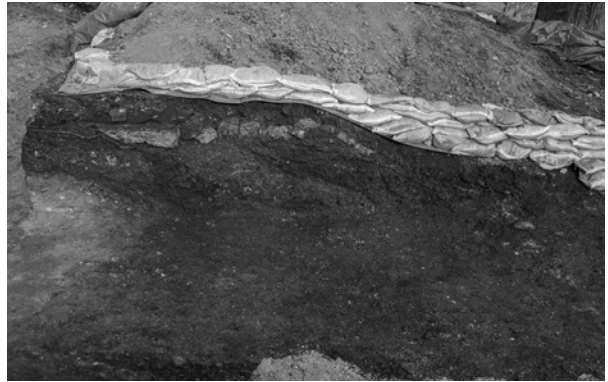
1. 4区西壁(深堀3区)土層断面南から5(東から)



2. 4区西壁土層断面南から6(東から)



3. 4区西壁土層断面南から7(東から)



4. 4区北壁東側土層断面(南から)



5. 4区北壁西側土層断面(南から)



6. 4区東壁北側土層断面(西から)



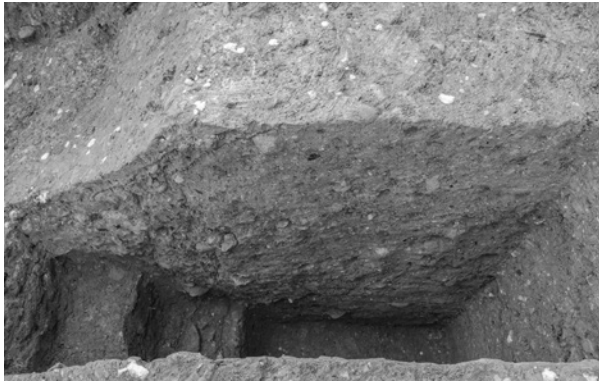
7. 4区南壁東側土層断面(北から)



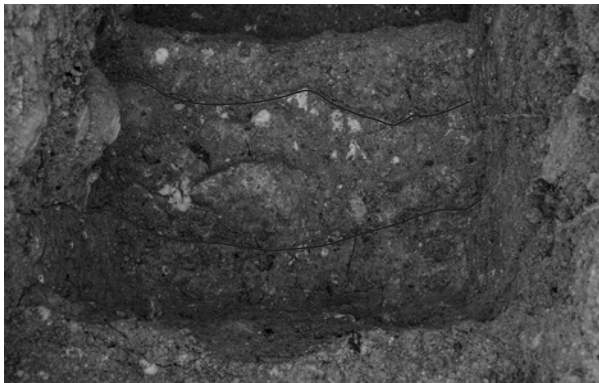
8. 4区南壁西側土層断面(北から)

図17 仙台城跡二の丸第19地点4区調査状況2





1. 4区深堀区1区南壁土層断面（北から）



2. 4区深堀1区6層範囲（東から）



3. 4区深堀2区全景（東から）



4. 4区深堀2区土管確認状況（南から）



5. 4区深堀2区東壁土層断面（西から）



6. 4区深堀2区北壁西側土層断面（南から）



7. 4区深堀2区北壁東側土層断面（南から）

図18 仙台城跡二の丸第19地点4区調査状況3

によって埋められていた。この溝を掘り下げたところ、径30cm程の土管を確認した。その土管下の溝底面は盛土であり、地山面は確認できなかった。この溝は、充填された碎石やその上部の砂礫層の存在からすると、盛土上面の排水施設として捉えることができる。

#### その他の特徴

調査区北側では、東南方向に伸びる通路状の高まりが確認できた。その高まりの北側では、礫が積まれていた。この礫群は、調査が部分的であるため判然としないが、盛土の上部にある砂礫層（4層）を塞ぎ止める構造となっていたものと推定される。なお、この通路状の高まりの南側では、これらの礫は確認できていない。

#### 調査の成果

4区の調査で確認できた盛土は、火薬庫cに向かう道路と考えられる。この道路は、図6-1にも描かれている直線的な道路に該当する。そして、土層断面の観察（図10・11）からは、4層上部が道路面となる砂利道であったと推定できる。道路の東側には砂礫が広がり、土管のある溝まで砂礫層を通して雨水が流れる構造としていたものと考えられる。砂礫層の上部にある3層は、その土層の構造から、道路等の上方（西側）からの流出した土や砂礫が累積して堆積した土層と考えられる。その後、この場所に仙台空襲による片付け土等（2層）が廃棄された。このような状況から、今回の調査区となっている平場と段差は、第二師団により造成された道路と、その後の仙台空襲後の片付けにより人工的に作られた地形と考えられる。なお、図13に2層より出土した遺物を示した。図13-1は様々なものが溶けて固まったものである。図13-2は瓦であるが、表面が発泡している。

4区の調査で確認された盛土は厚く、近世の堆積層や地山面は全く確認できていない。4区周辺については、当初の想定通り火薬庫設置にあたり大規模な造成がなされたものと推定できる。一方で、4区東側の斜面下方に位置するNM6調査区では、近世の遺構が確認されている。このNM6において確認された石垣状遺構の石垣上の標高は75.3mとなり、近世の道路面と推定される6層上面の標高は概ね74.8mとなる。今回の調査区では、深堀3区の溝に埋設された土管底部付近で74.9m程度となり、土管近辺がNM6近世遺構の検出面と同じレベルとなる。今回の調査区は師団期に大規模に造成されたものと推定されるが、4区東側の段差下部周辺における開発計画にあたっては、今後継続的に注意する必要がある。

#### 立会調査

##### ・川内南地区雨水排水改修工事Ⅳ（2019-6）

近年の集中豪雨により、植物園裏の青葉山からの雨水が大量に溢れ出し、川内南キャンパス南西部全体の雨水排出が機能していない状況が見受けられた。これは、埋設配管や集水桝等の雨水排水経路が、経年劣化のためのずれや破損、あるいは破損箇所から樹木の根が入り込むことによる詰まり等によるものと考えられた。この問題を解決するため、既存の雨水排水管等を撤去や更新し、新たな雨水排水経路を敷設する4ヶ年の工事計画が策定され、2016年度から工事が開始された。本工事は4ヶ年の最後となるⅣ期工事である。今年度の工事による掘削は、既存管・桝の掘方や既存建物の造成土内に収まり、特に問題はなかった。

##### ・川内南地区雨水桝取設工事（2020-8）

4回に渡る雨水排水工事により、概ね排水不良が解消されたものの、経済学部研究棟南側の敷地内通路に一部排水勾配が確保できない部分があり、雨天時に雨水が滞水して、通行が困難な状態となっていた。本立会調査は、この雨水滞留箇所に雨水桝を新設し、既存排水管に接続する工事に伴うものである。深さ0.4m程の掘削を行ったが、現代の造成土と既存排水管の造成土内に収まり、特に問題はなかった。

##### ・文教研究棟1階男子トイレ汚水管修繕工事（2020-13）

文教研究棟1階男子トイレに詰まりが見られ、汚水管内を調査したところ、汚水管にずれがあることが判明し、部分的に既存管と新規管との入れ替えが行われることになった。本工事は掘削は、既存管の掘方内に収まり、特に問題はなかった。



### (3) 青葉山地区の調査

青葉山地区では、立会調査4件を実施している(図19)。

#### ・基幹・環境整備(給排水設備)工事(2020-1)

川内から青葉山に送水する給水管の修繕工事を行うことになり、既存配管の撤去と新規配管の設置に伴う立会調査を行った。青葉山キャンパス内で新規掘削箇所が発生したものの、現代の造成土の範囲内に収まり、斜面部は、基本的に既存配管の造成土の範囲内に収まり、特に問題はなかった。

#### ・建築実験所屋外排水管新設工事(2020-2)

今回の工事は、建築実験所周辺の集水桝新設、集水桝のオーバーフロー管新設及び既存合流桝への接続を目的とするものである。この工事では、最大で深さ1.3m程の新規掘削箇所が予定されていた。以前に、本工事箇所の南西側に位置するサイバーサイエンスセンター(当時の名称:大型計算機センター)新設工事の際に試掘調査を実施しており(『年報』11・12)、その調査では縄文時代以後の層はすでに削平されていることが確認されている。今回の工事地点は、その調査終了面からさらに下方にあたるため、遺構・遺物は確認されないものと推定された。掘削の結果、その推定の通りに削平されていることが確認できた。

#### ・青葉山体育館改修その他工事(2020-3)

青葉山体育館において部屋の拡張等の利用環境の改善工事が行われることとなった。この工事では、大規模な土地造成等は発生しないが、増築部分への地中梁及び集水ピットの新設、ならびに増築に伴う雨水配管等の撤去により、最大で深さ1.0m程の新規掘削箇所が予定されていた。工事範囲は、現在の体育館の中庭にあたり、躯体に隣接していることから、遺構や遺物を含む土層はすでに削平されていることが想定された。掘削の結果、全て現代の造成土であることが判明し、特に問題はなかった。

#### ・災害復旧(法面)工事(2020-10)

2020年の台風19号により、川内キャンパスと青葉山工学部機械系キャンパスを結ぶ遊歩道の法面が崩落し、その部分を復旧する工事が必要となった。本工事における掘削対象の大部分は、遊歩道に堆積した崩落土となるが、部分的なふとんかご新設部のみ新規掘削が予定された。この掘削では、地表面直下に段丘礫層が確認され、遺構・遺物を含む土層は確認できなかった。その他の箇所は、基本的に崩落土の除去であり、特に問題はなかった。

### (4) 富沢地区の調査

富沢地区では、確認調査1件、立会調査2件を実施した(図20)。

#### ・基幹・環境整備(給排水設備)工事(TM11)

本工事は、老朽化した給排水の設備工事を行うものである。この工事では、基本的に既存管の入れ替えや既存管の再生作業を行うことから、大規模な掘削は生じない。しかし、部分的に新規掘削となる地点があり、これまでの調査成果から遺構等も確認される可能性があることから、事前に確認のための発掘調査を実施した。なお、既存管部分の入れ替え等は、立会調査で対応した(2020-12)。

今回の調査では、調査区(231.15㎡)を6区に分け、現在の表土・近現代の盛土等を重機で掘削した後に、遺物包含層や遺構等の確認のための精査を行った。その精査終了後に、写真・図面等の記録類を作成した。調査は、雨天のため8月31日、9月1日、2日午後の2日半程を作業中止としたが、最終的には予定通りの2週間で終了した。

#### 調査区ごとの概要

##### 1区(図21・25・26)

表土と近現代の盛土下から、黒色の旧表土層を確認した。この土層は、この地に仙台陸軍幼年学校(以下、幼年学校と略する)が新設される以前、1937年以前の堆積層と考えられる。この旧表土層の下には2枚の堆積層が







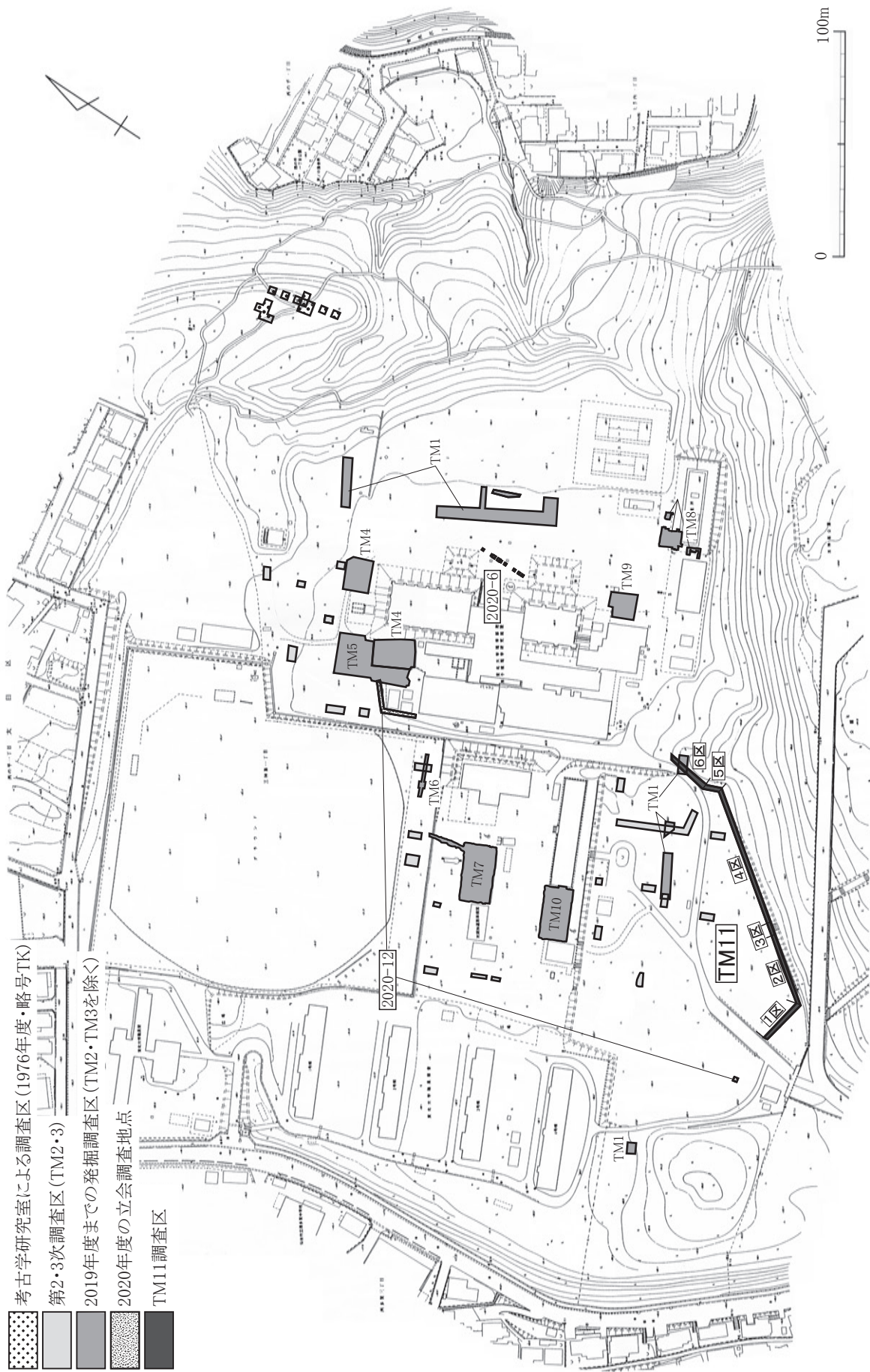
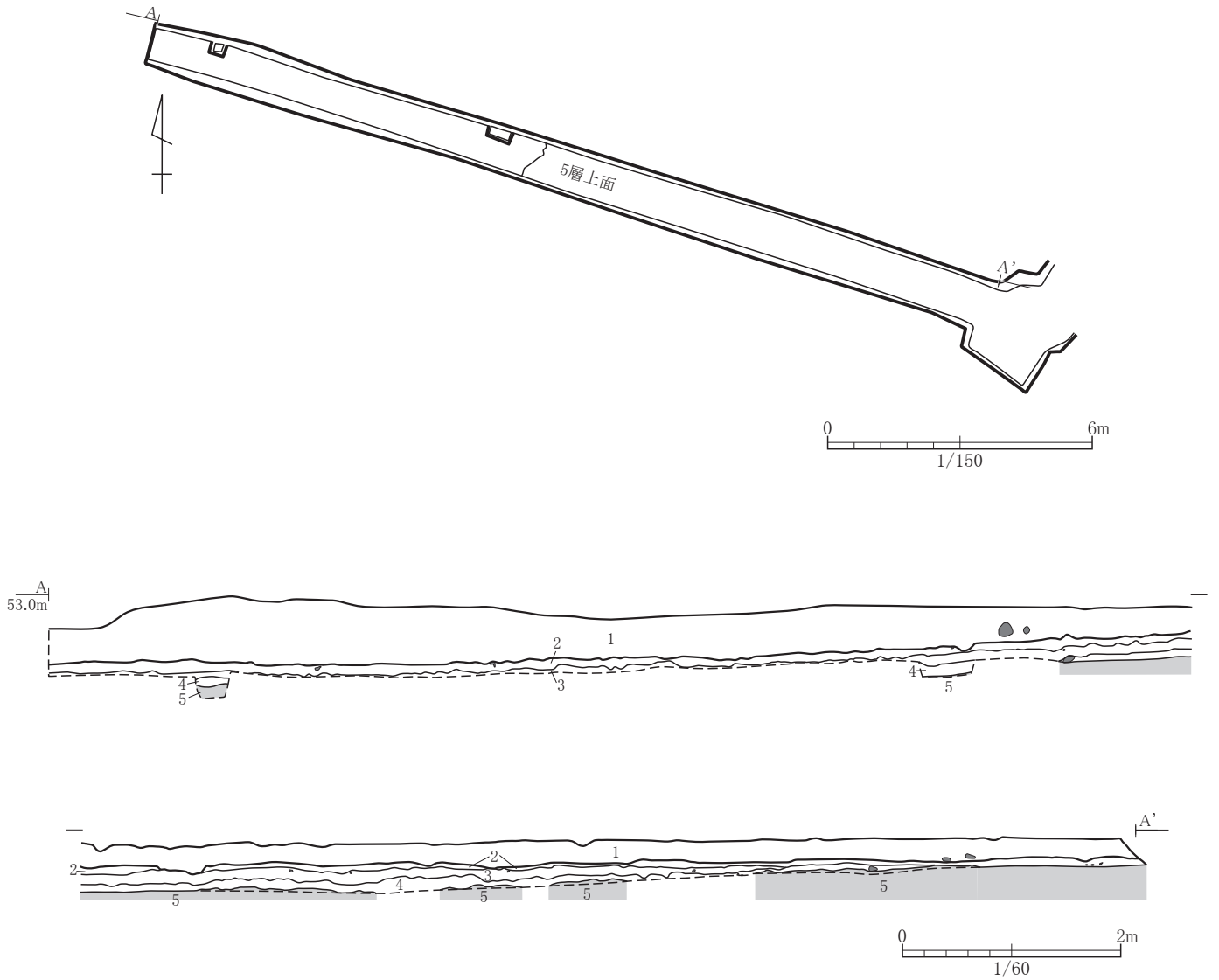


図20 富沢地区調査地点

あり、その下は黄色軽石を含む地山層となる。これまでの芦ノ口遺跡の調査では、粘土採掘の対象となる水性堆積による粘土層を地山層として捉えてきた。一方で、今回の調査で確認された黄色軽石を含むような地山層は、これまでの調査では認められていない。また、これらの土層の堆積状況から、この調査区内の地形は南側から北側へと緩やかに傾斜していたことが判明した。



**基本層**

- 1層 現代の盛土
- 2層 H10YR2/1 黒色 シルト質粘土 旧表土
- 3層 H10YR2/3 黒褐色 砂質
- 4層 H10YR4/4 褐色 粘土 粘性強・しまり中 地山由来の黄色軽石を少量含む
- 5層 H10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強・しまり強

図21 芦の口遺跡第11次調査1区平面・土層断面図

## 2～4区 (図22・26～28)

2～4区では、現在の表土・盛土直下から粘土・砂混じりの地山層を確認した。この地山層は、その土質から第7次調査における基本層序3層の砂混じりの粘土層に相当するものと推定される(芦ノ口遺跡第7次・第8次調査:TM7・8、『調査報告』3)。堆積層等は確認できず、古い時代の遺構・遺物は全く確認できなかった。この地区は、近現代の造成により元々の堆積層等は削平されているものと考えられる。

2～4区の南端には、現在は機能していないコンクリート製の側溝がある。これらの側溝は、幼年学校時代の階段と直角に交わる。3区では、階段の端に沿った土管が2条確認された(図22)。これらの土管は側溝に取り付くことから、幼年学校時代に階段・側溝・土管が同時に機能していたものと推定される。

## 5区・6区 (図23・24・28～31)

5区では、現在の表土・盛土下から砂利層と2枚の盛土層を確認した(図23)。これらの層の下には旧表土等は認められないことから、5区では旧地形を削平した後に整地がなされたものと推定できる。5区の南側には、3区と同様に幼年学校時代の階段が設置されている。5区で確認されたこれらの砂利・盛土は、そこへと至る道の整備によるものと推定される。

また、この盛土層を切る近代のピット、土管や溝跡を数条確認した。これらのうちの1号溝(図23・29)から、時期不明の土師器が確認されている(図32)。これらの土師器片は、全て摩耗した小片であることから、周囲からの流れ込みによるものと考えられる。

6区南側では、5区と同様に近代の盛土層が認められ、幼年学校時代のものと考えられるコンクリート製の側溝のほか、古い時代の遺構・遺物は全く認められなかった(図24)。

## 調査結果

今回の調査では、これまでの調査で認められたような縄文・古墳時代の遺構は全く確認できず、近代の溝に流れ込んだ時期不明の土師器片を採集したに留まった。一方で、幼年学校時代の排水に関わる土管や整地層等は確認でき、幼年学校時代の地形改変等を考える上で貴重な成果と考えられる。

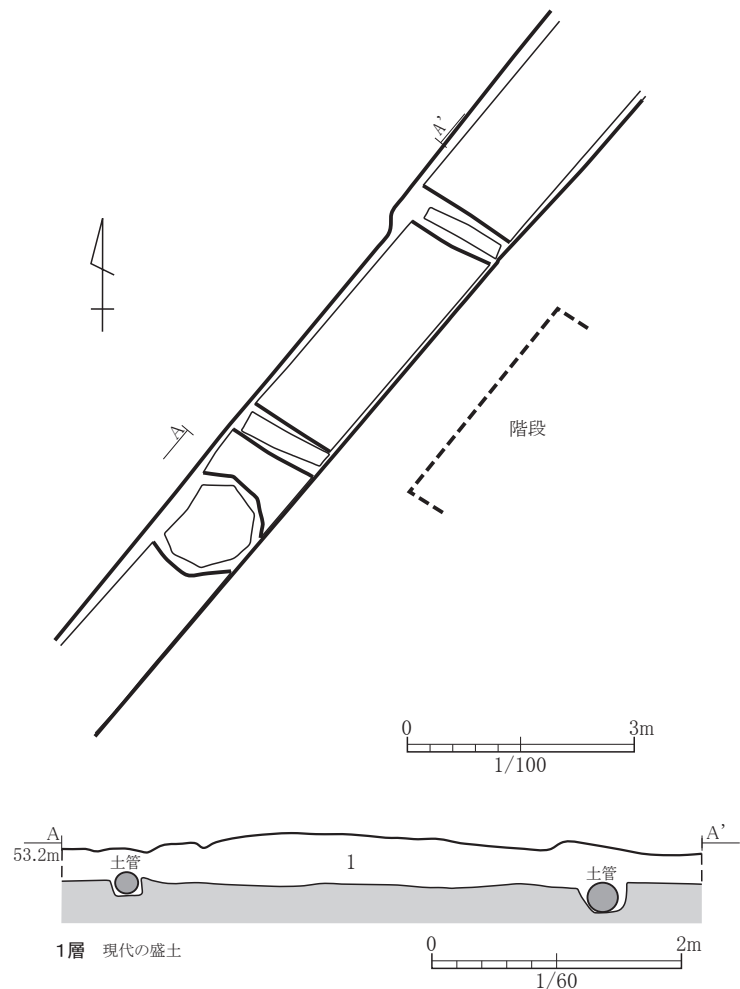
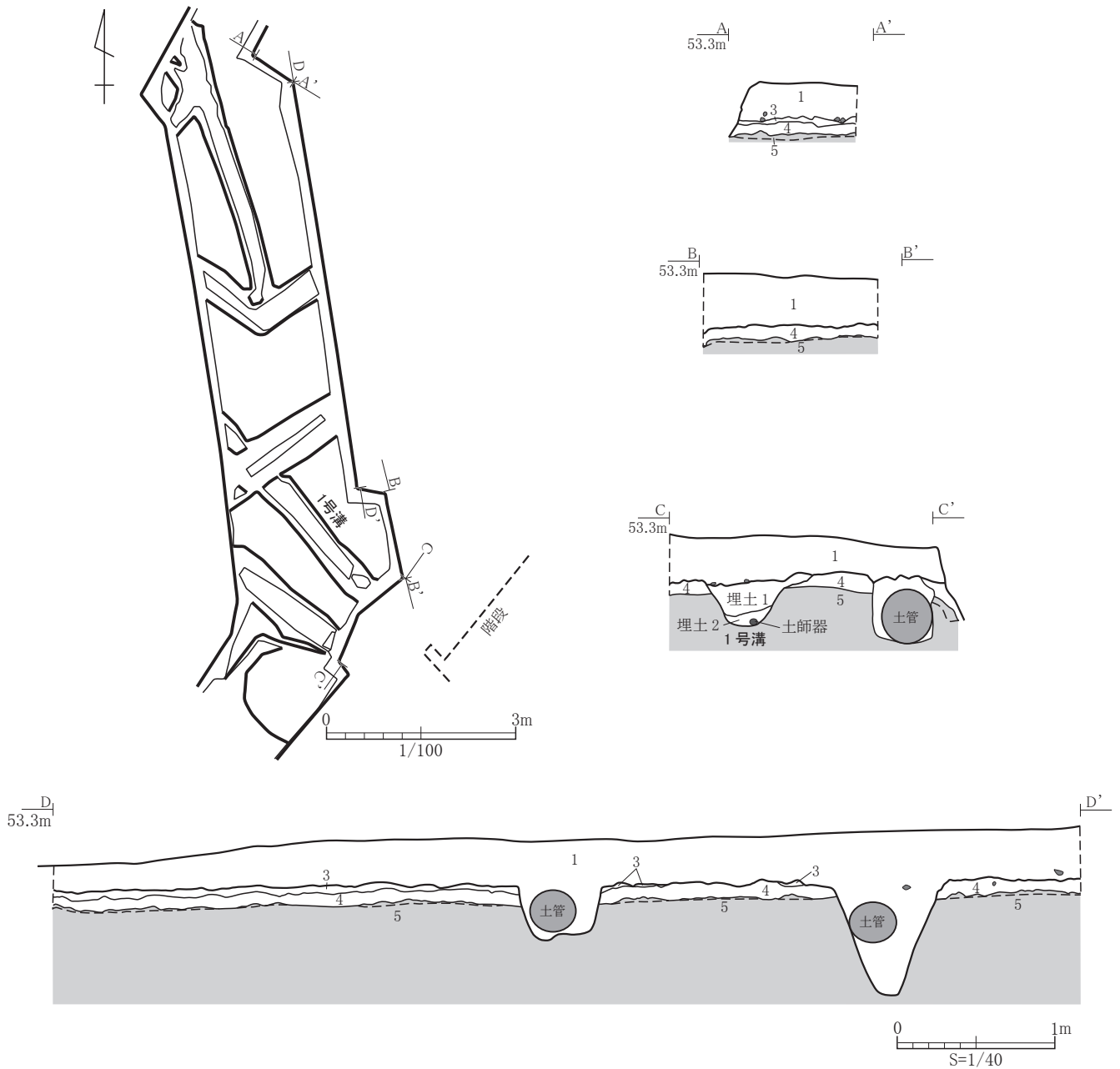


図22 芦ノ口遺跡第11次調査3区平面・土層断面図



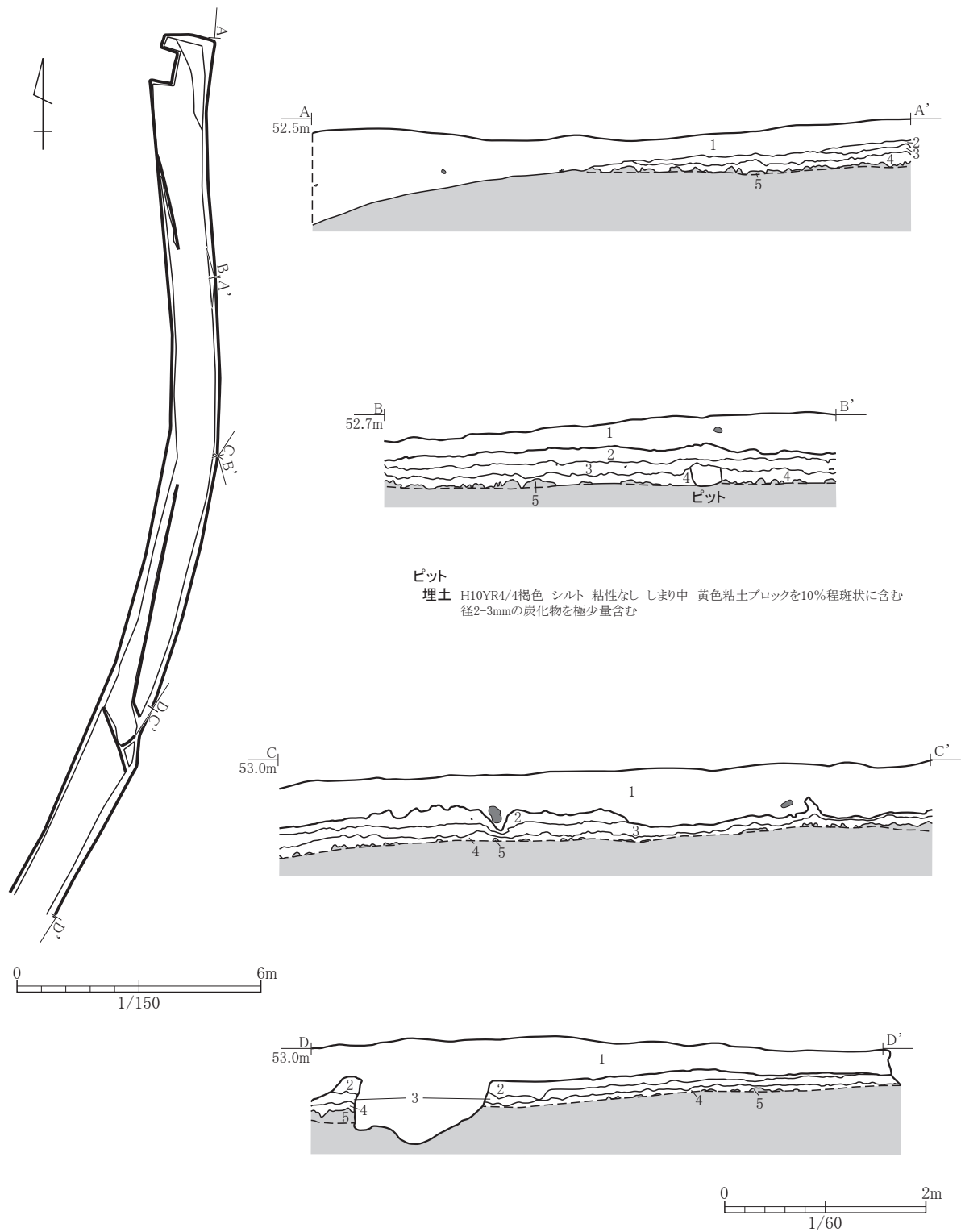
**基本層**

- 1層 現代の表土
- 2層 H10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性なし・しまり強 径1-2mmの炭化物を少量含む 径1-2cmの黄色粘土ブロックを極少量含む 近代の盛土
- 3層 H10YR4/3 暗褐色 シルト質粘土 粘性弱・しまり強 径2-3mmの炭化物、黄色粘土ブロックを極少量含む
- 4層 H10YR4/4 褐色 シルト質粘土 粘性中・強 黄色粘土を30%程斑状に含む 径3-5mmの炭化物を極少量含む
- 5層 H10YR5/8 黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 マンガン粒を多く含む 木の根と考えられる黒色土を15%程斑状に含む 地山層

**1号溝**

- 埋土1層 H10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径5mmの黄色粘土ブロック・土器片を少量含む
- 埋土2層 H10YR3/4 暗褐色 シルト質粘土 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを10%程斑状に含む 土器片含む

図23 芦の口遺跡第11次調査5区平面・土層断面図



基本層(5区と同じ)

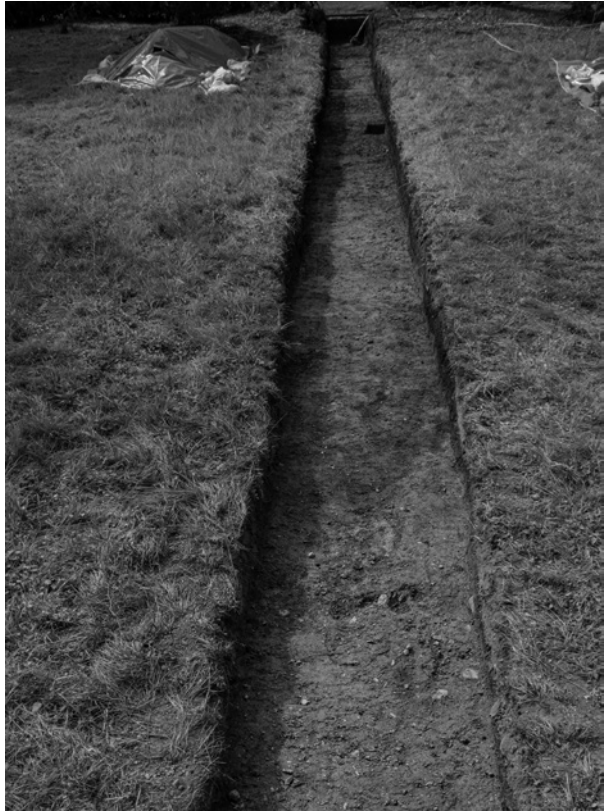
- 1層 現代の表土
- 2層 H10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性なし しまり強 径1-2mmの炭化物を少量含む 径1-2cmの黄色粘土ブロックを極少量含む 近代の盛土
- 3層 H10YR4/3 暗褐色 シルト質粘土 粘性弱 しまり強 径2-3mmの炭化物、黄色粘土ブロックを極少量含む
- 4層 H10YR4/4 褐色 シルト質粘土 粘性中 しまり強 黄色粘土を30%程斑状に含む 径3-5mmの炭化物を極少量含む
- 5層 H10YR5/8 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 マンガン粒を多く含む 木の根と考えられる黒色土を15%程斑状に含む 地山層

図24 芦の口遺跡第11次調査6区平面・土層断面図





1. 1区全景(東から)



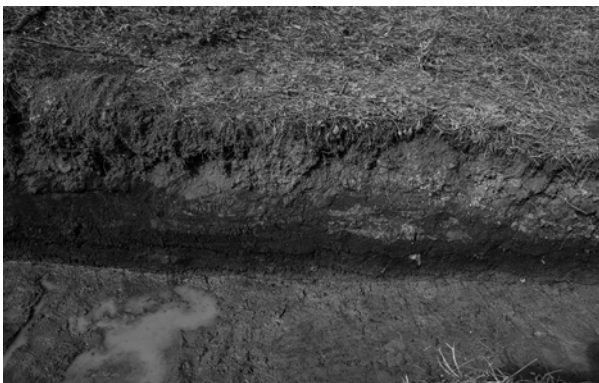
2. 1区全景(西から)



3. 1区北壁土層断面東から1(南から)



4. 1区北壁土層断面東から2(南から)



5. 1区北壁土層断面東から3(南から)



6. 1区北壁土層断面東から4(南から)

図25 芦の口遺跡第11次調査1区調査状況1





1. 1区北壁土層断面東から5(南から)



2. 1区北壁土層断面東から6(南から)



3. 1区北壁土層断面東から7(南から)



4. 1区北壁土層断面東から8(南から)



5. 1区北壁土層断面東から9(南から)



6. 1区北壁土層断面東から10(南から)



7. 1区北壁土層断面東から11(南から)



8. 3区階段付近調査状況(西から)

図26 芦の口遺跡第11次調査1・3区調査状況





1. 2区東側全景(西から)



2. 2区中央全景(西から)



3. 2区西側全景(西から)



4. 3区全景(西から)

図27 芦の口遺跡第11次調査2・3区調査状況





1. 4区全景(西から)



2. 5区全景(北から)



3. 5区全景(南から)



4. 5区東壁土層断面北から1(西から)



4. 5区東壁土層断面北から2(西から)

図28 芦の口遺跡第11次調査4・5区調査状況





1. 5区東壁土層断面北から3(西から)



2. 5区東壁土層断面北から4(西から)



3. 5区東壁土層断面北から5(西から)



4. 5区北壁土層断面(南から)



5. 5区東壁土層断面(西から)



7. 5区1号溝跡完掘



6. 5区南壁・1号溝土層断面(北から)

図29 芦の口遺跡第11次調査5区調査状況





1. 6区全景(南から)



2. 6区全景(北から)



3. 6区東壁土層断面北から1(西から)



4. 6区東壁土層断面北から2(西から)



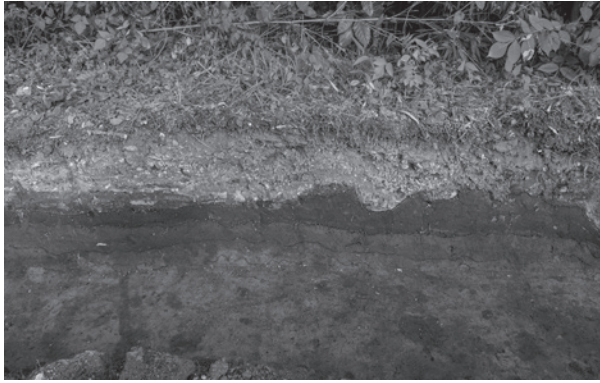
5. 6区東壁土層断面北から3(西から)



6. 6区東壁土層断面北から4(西から)

図30 芦の口遺跡第11次調査6区調査状況 1





1. 6区東壁土層断面北から5 (西から)



2. 6区東壁土層断面北から6 (西から)



3. 6区東壁土層断面北から7 (西から)



4. 6区東壁土層断面北から8 (西から)



5. 6区東壁土層断面北から9 (西から)



6. 6区東壁土層断面北から10 (西から)

図31 芦の口遺跡第11次調査6区調査状況2



図32 芦の口遺跡第11次調査1号溝出土遺物

#### ・電子光学センターフェンス新設工事（2020-6）

放射線管理区域の拡張を行うため、境界フェンスの新設が必要となった。フェンスを設置する際、基礎の新設を行うため、掘削工事が発生することとなった。掘削は60cm程度で、現代の造成土に収まり、特に問題なかった。

## 2. 遺物整理作業

### （1）仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点（BK15）の整理作業

課外活動施設新営に伴い、2012～2014年度に発掘調査を実施した。調査面積が1503㎡と広く、多種多様な近世の遺構が検出されている。それに伴う遺物も、近世の陶磁器、瓦、土器、金属製品、木製品等が115箱と非常に多く出土している。発掘調査時の空撮測量図面や手書き遺構図面の整理等の作業は、前年度に継続して作業を進めた。遺物は、2020年度から本格的に整理作業を開始した。磁器、陶器、土師質土器、鉄製品、銅製品などの材質ごとに分け、以後は材質別に整理作業を進めている。本年度は、接合、分類、集計といった基礎的な作業を中心に行った。鉄製品、銅製品、鉛製品は、集計できる程度に錆を除去して器種を確定させ、出土場所ごとに集計を行った。磁器、軟質施釉陶器は接合・補修作業を終え、器種分類作業をした上で、集計を進めた。陶器、瓦質土器は、接合作業の途中であり、次年度に継続して作業を行う。

### （2）青葉山E遺跡第10次調査（AOE10）の整理作業

本調査は、仙台市営地下鉄東西線青葉山駅の屋外環境整備（駅前広場）に伴い2015年度に実施した。調査面積は56.9㎡で、遺物は縄文時代中期の土器や石器を中心に、5箱分が出土している。本年度は、測量図面と調査写真の整理・分類と、脆弱な土器の補強作業を行った。

## 3. 年次報告・調査報告の刊行

2020年度は、『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2019を印刷刊行した。この『年次報告』2019には、2019年度に調査室が行った各種事業と、試掘調査1件、立会調査7件の概要を掲載した。

## 4. 保存処理事業

当室では、仙台北城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品等、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この中で、木製品・金属製品については、当室で保存処理を進めている。

木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（『調査年報』16）。一部の大型製品を除くと、2010年度までの調査で出土した木製品の保存処理は終了している。2011年度以降、2015年度まで規模の大きな発掘調査が継続しており、木製品も多数出土した。2020年度は、2011～2015年度の調査のうち、すでに報告書を刊行済みの仙台北城跡二の丸第18地点（NM18）、仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16）については、保存処理が継続している木製品があり、引き続き処理作業を行った。2020年に報告書を刊行した仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）は、報告書に掲載した木製品の保存処理作業を開始した。武家屋敷地区第15地点（BK15）については、分類や集計作業が終わり、図化しない抽出外木製品の保存処理作業を前年度に継続して引き続き行った。

銅製品と鉄製品は、武家屋敷地区第15地点の報告書に掲載予定の遺物について、錆取りなどのクリーニング作業を行い、その後の図化作業を進められるように、順次進めている。2020年度に報告書を刊行した武家屋敷地区第14地点の報告書掲載銅製品・鉄製品の保存処理作業を本格的に開始した。また、すでに報告書刊行を終えた仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16：『調査報告』5）の銅製品・鉄製品の処理作業を継続している。他に、保存処理体制が整う2000年度以前の調査で出土した金属製品を再確認したところ、未処理のままとなって



いた遺物が、銅製品では若干確認された。鉄製品は、釘をはじめとして大量に出土しているが、図化して報告した資料以外は、ほとんどが未処理のままである。これら過去の調査で未処理のままとなっていた銅製品・鉄製品の状況を確認するとともに、順次、継続して保存処理を行っており、2020年度も作業を行った。

また、武家屋敷地区第14地点では、箕や網代などの有機質素材が用いられている遺構を検出した。これらは調査時に発泡ウレタンを用いて、箕や網代の編み方を壊さないようにそのまま取り上げている。これら特殊な有機質資料については、PEG（ポリエチレングリコール#4000）を用いて保存処理を行った。PEG溶液を20%濃度から資料表面に塗布し、徐々に濃度を上げながら資料表面全体がPEGで白く固化するまで塗布を続けた。白く固化したPEGをドライヤー等で溶かして資料表面を露出し仕上げを行っている。処理後の状況を適宜確認し、クリーニング作業などを継続して行った。

### 5. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンコー社製サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。また2009年度より、収蔵用の箱に木製箱を採用している。油脂製のコンテナは、火災の際に甚大な被害を受けるのに対して、木製箱は耐熱性が高く火災時に燃焼するまでの時間が長いことが明らかとなっている（小林・栗本・藤沢・松井2006、小林・栗本・松井2006）。そのため当室では、整理作業後の収蔵保管にあたっては、油脂製箱から木製箱へ取り替えていくこととし、2009年度から一部は木製箱へ詰め替えを行っている。2019年度までに、247箱分について、木製箱に詰め替える作業を終えている。

遺物の全体量を把握するために、容器の種類や大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品等保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、この中には含まれていない。埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4、図33である。

2020年度の調査では、TM2020とNM2020にて、それぞれ1箱に満たない程度の遺物が出土している。それらは、すでに整理・収蔵済みでスペースに余裕がある箱と一緒に収蔵したため、新たな箱数としての増加はない。現在、整理報告済みの箱数は2941箱で、未整理のものは198箱、合計の遺物総量は3139箱であり、整理・報告済みのものの比率は93.7%である。

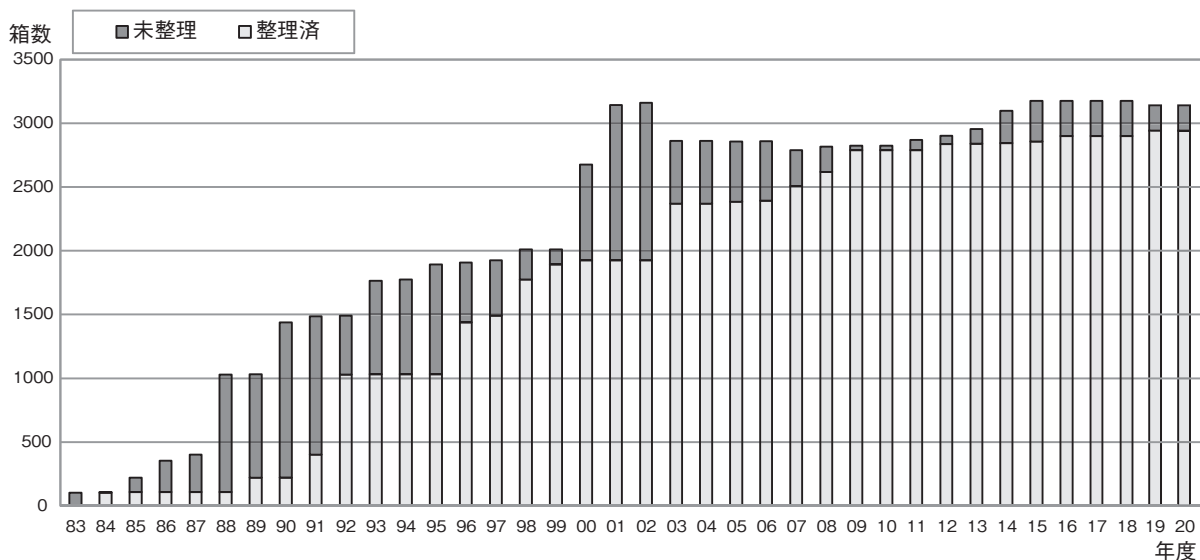


図33 収蔵遺物量の推移

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

| 年 度  | 未整理箱数 | 整理済箱数 | 合計箱数  | 備 考   |
|------|-------|-------|-------|---|
| 1983 | 104   | 0     | 104   |   |
| 1984 | 4     | 104   | 108   | 年報1 (1983年度調査分) 刊行                          |
| 1985 | 113   | 108   | 221   | 年報2 (1984年度調査分) 刊行                          |
| 1986 | 245   | 108   | 353   |   |
| 1987 | 293   | 108   | 401   |   |
| 1988 | 920   | 108   | 1,028 |   |
| 1989 | 811   | 221   | 1,032 | 年報3 (1985年度調査分) 刊行                          |
| 1990 | 1,218 | 221   | 1,439 |   |
| 1991 | 1,086 | 401   | 1,487 | 年報4・5 (1986・87年度調査分) 刊行                     |
| 1992 | 463   | 1,028 | 1,491 | 年報6 (1988年度調査分) 刊行                          |
| 1993 | 732   | 1,032 | 1,764 | 年報7 (1989年度調査分) 刊行                          |
| 1994 | 742   | 1,032 | 1,774 |   |
| 1995 | 861   | 1,032 | 1,893 |   |
| 1996 | 469   | 1,439 | 1,908 | 年報8 (1990年度調査分) 刊行                          |
| 1997 | 435   | 1,491 | 1,926 | 年報9・10 (1991・92年度調査分) 刊行                    |
| 1998 | 236   | 1,774 | 2,010 | 年報11・12 (1993・94年度調査分) 刊行                   |
| 1999 | 117   | 1,893 | 2,010 | 年報13 (1995年度調査分) 刊行                         |
| 2000 | 751   | 1,926 | 2,677 | 年報14・15・16 (1996・97・98年度調査分) 刊行             |
| 2001 | 1,216 | 1,926 | 3,142 | 年報17 (1999年度調査分) 刊行                         |
| 2002 | 1,234 | 1,926 | 3,160 |   |
| 2003 | 491   | 2,370 | 2,861 | 二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少                       |
| 2004 | 491   | 2,370 | 2,861 | 年報18 (2000年度調査分) 刊行                         |
| 2005 | 472   | 2,384 | 2,856 | 年報19-1・20 (2001・02年度調査分) 刊行                 |
| 2006 | 467   | 2,391 | 2,858 | 年報19-3・21 (2001・03年度調査分) 刊行                 |
| 2007 | 281   | 2,507 | 2,788 | 年報19-4・22 (2001・04年度調査分) 刊行                 |
| 2008 | 198   | 2,619 | 2,817 | 年報19-2・23 (2001・05年度調査分) 刊行                 |
| 2009 | 34    | 2,790 | 2,824 | 年報19-5・24 (2001・06年度調査分) 刊行 地下鉄補償関係調査整理作業終了 |
| 2010 | 34    | 2,790 | 2,824 |   |
| 2011 | 78    | 2,790 | 2,868 | 調査報告1 (武家屋敷地区第11・12地点) 刊行                   |
| 2012 | 65    | 2,836 | 2,901 | 調査報告2 (武家屋敷地区第13地点) 刊行                      |
| 2013 | 116   | 2,838 | 2,954 | 調査報告3 (芦ノ口遺跡第7・8次調査) 刊行                     |
| 2014 | 254   | 2,843 | 3,097 | 調査報告4 (青葉山E遺跡第9次調査・芦ノ口遺跡第9次調査) 刊行           |
| 2015 | 319   | 2,857 | 3,176 | 調査報告5 (武家屋敷地区第16地点) 刊行                      |
| 2016 | 277   | 2,899 | 3,176 | 調査報告6 (仙台城跡二の丸第18地点) 刊行                     |
| 2017 | 277   | 2,899 | 3,176 |   |
| 2018 | 277   | 2,899 | 3,176 | 調査報告7 (武家屋敷地区第14地点調査遺構編) 刊行                 |
| 2019 | 198   | 2,941 | 3,139 | 調査報告8 (武家屋敷地区第14地点調査遺物・考察編) 刊行              |
| 2020 | 198   | 2,941 | 3,139 |   |

## 6. 研究活動

### (1) 受託研究・共同研究等

- ・本学東北アジア研究センター（代表者：野本禎司 助教）と共同で、川内地区の武家屋敷地区に関する共同研究「仙台城の利用実態に関する復元的研究－近世東北地方の城郭比較分析－」を行った。その成果の一部は、2021年3月22日にパンフレット「仙台城二の丸と川内武家屋敷地－東北大学川内キャンパスの歴史遺産－」としてまとめられた。

### (2) 学会発表等

2020年度は、当室の業務に関わる学会での発表はなかった。

### (3) 科学研究費等外部資金採択状況

- ・柴田恵子 学術研究助成基金助成金・基盤研究（C）（研究課題番号19K01123）「基礎構造分析に基づいた近世塗塗製品の保存処理及び形態・組成に関する研究」（直接経費1,500,000円、間接経費450,000円）研究代表者



## 7. 教育普及活動

### (1) 非常勤講師

・菅野智則 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学特論Ⅲ・各論（後期）「先史文化の考古学」

### (2) 取材・協力等対応

2020年度は、当室の業務に関わる取材・協力等対応はなかった。

### (3) 構内の文化財・当室の業務内容の紹介

・東北大学歴史遺産マップの公開 キャンパスデザイン室、史料館と共に本学の歴史遺産に関するマップを作成した。当初はテクルペに掲載されていたが、2020年4月末閉鎖となったため、当室のwebに掲載している。  
<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/15historymap.htm>

### (4) 専門知識・技術の提供を通じた授業・社会貢献

- ①9月7日 東北大学総合学術博物館から依頼を受け、博物館実習VI（館園実習）に協力し、「埋蔵文化財調査室における収蔵と管理」について説明する共に、当室の施設について解説を行った。参加者は16名だった。
- ②10月14日 学際科学フロンティア研究所より依頼を受け、「Sfmハンズオンセミナー@東北大学」を共催した。
- ③10月20日 電子光理学研究センターより依頼を受け、ELPH seminar「青葉山丘陵南辺部の遺跡群－芦ノ口遺跡とその周辺－」と題する講演と、芦の口遺跡出土遺物のミニ展示説明会を行った。
- ④10月25日～11月7日 文学研究科考古学研究室より依頼を受け、宮城県村田町姥沢遺跡の発掘調査について協力を行った。

### (5) 展示事業

- ①常設展示「かわうち今昔物語」 会場：東北大学川内萩ホール

この事業は、2011年度から継続的に実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。2016年度より、本学総務企画部社会連携課社会連携推進係編集・発行のまなび情報誌「まなぶひと」において広告を掲載していたが、新型コロナウイルスの影響により「まなぶひと」は2020年4月号にて一時休刊となっている。また、川内萩ホールのホームページでも紹介されている。

<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/hagihall/facility/gallery.html>

- ②新入生歓迎展示「川内歴史さんぽ」

会場：東北大学附属図書館 会期：2020年3月24日（火）～5月7日（木）

東北大学附属図書館、史料館と共同で主催した。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため展示会場の図書館が会期中に閉鎖となった。そのため、動画版の展示案内を公開した。なお、この動画は現在も公開されている。

[https://www.youtube.com/watch?v=26\\_z8bxXOqc](https://www.youtube.com/watch?v=26_z8bxXOqc)

- ③東北大学オンライン校友祭「川内キャンパスの過去を探る」

本学の113周年ホームカミングデーが中止となり、その代替イベントとして「東北大学オンライン校友祭」がオンラインにて12月15日～25日に開催された。当室では、「川内キャンパスの過去を探る」とする題する動画を公開した。なお、この動画は現在も公開されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=FzW4xY3TLII>

- ④「川内キャンパスの過去を探る－川内駅前発掘調査成果から－」

会場：東北大学附属図書館 会期：2020年10月24日（土）～11月29日（日）

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14次調査の調査報告書が刊行されたことに伴い、その内容についての展示を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、図書館入り口ゲート内での展示とし、本学の学生・教職員のみへの公開とした。

#### (6) 保管資料の見学・貸出・掲載の依頼等

- ① 8月7日 木簡学会より、これまでに『木簡研究』に掲載された当室の木簡に関して、電子化とインターネット公開したい旨の依頼があった。
- ② 2021年2月26日 東北歴史博物館より依頼を受けて、青葉山遺跡C地点出土局部磨製石斧の資料調査があった。同資料に関しては、3月16日に旧石器時代の展示資料（期間3月16日～2022年3月31日）として貸出を行った。

#### (7) 外部からの派遣依頼

担当者：菅野智則

- ・ 7月31日、10月16日 公益財団法人いわき市教育文化事業団より依頼を受け、福島県いわき市の平城跡の発掘調査において、学識経験者の立場から、遺跡の調査方法等の指導・助言を行った。
- ・ 2021年3月3日 東北大学学術資源公開センターより依頼を受け、「歴史文化資料保全コーディネーター講座」（会期：3月3日～5日）にて「様々な資料の保全①：考古学資料」の講師を行った。

担当者：石橋 宏

- ・ 東北大学ヨッタインフォマティクス研究センター研究助成 「古墳・石室を対象とした3D・CTスキャンデータに基づく認知的解釈」（代表：鹿又喜隆 東北大学） 研究協力者  
11月27日・28日・29日・30日 鳥根県安来市鷺の湯病院1号横穴出土家形石棺の3次元計測を行うため、棺身内部の埋設された部分を掘り出し、内外面の写真撮影による3次元計測を補助した。

担当者：千葉直美

- ・ 東北大学ヨッタインフォマティクス研究センター研究助成 「古墳・石室を対象とした3D・CTスキャンデータに基づく認知的解釈」（代表：鹿又喜隆 東北大学）  
2021年1月～3月 鳥根県安来市鷺の湯病院跡横穴墓出土品の保存処理に協力を行った。

#### (8) その他の広報活動

##### ① 調査室ウェブサイト（<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>）

この事業は、2011年度から実施しており、これまでの経緯は『年次報告』2015に記載してある。本年度も継続的に更新し、当室発行のリーフレット「埋蔵文化財調査室だより」や、様々なイベントについて掲載している。

##### ② 全国遺跡報告総覧（<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>）における発掘調査報告書の公開

この事業には、2010年度に本学附属図書館が参加し、当室も当初の年度より附属図書館に協力している。全国遺跡報告総覧には、当室の調査報告書・年次報告書等を継続してアップロードし公開している。また、2016年度からは、附属図書館から依頼を受け、当室が中心となって本事業を進めている。



## 〈引用・参考文献〉

- 梶原洋・佐久間光平・山田しょう 1990『東北大学埋蔵文化財調査年報』 3 東北大学埋蔵文化財調査委員会
- 小林啓・栗本康司・藤沢敦・松井敏也 2006「木製収蔵箱による埋蔵文化財の収蔵・保管の意義」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』日本考古学協会 pp.318-321
- 小林啓・栗本康司・松井敏也 2006「木製箱と油脂箱」『考古学ジャーナル』 552 pp.25-30
- 佐藤雅也 2000「資料紹介 - 「仙台市管区経理部『各部隊配置図・国有財産台帳附図』について - 」『足下からみる民俗 (9)』調査報告書第19集 仙台市歴史民俗資料館 pp.131-135
- 仙台市教育局生涯学習部文化財課 2005『仙台城跡整備基本計画』
- 千葉直美 2001「糖アルコール含浸法における予備実験」『東北大学埋蔵文化財調査年報』 16 東北大学埋蔵文化財調査研究センター pp.19-26
- 藤沢敦ほか 1999a『東北大学埋蔵文化財調査年報』 11 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
- 藤沢敦ほか 1999b『東北大学埋蔵文化財調査年報』 12 東北大学埋蔵文化財調査研究センター
- 直接引用したもののみを掲載した

## IV. 資料

### 1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

- 室長
- 文化財調査員
- 特任准教授
- 事務職員
- その他の職員

(室長)

第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。

- 2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。
- 3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議を経て、総長が行う。
- 4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(文化財調査員)

第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。

- 2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 キャンパス総合計画委員会の委員 若干人
- 二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの
- 四 施設部長

(委員長)

第8条 委員長は、室長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会の会務を総理する。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。

(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。



- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。
- 2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。
- 3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

[次のよう] 略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

- 1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。
- 2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成25年4月23日規第56号改正）

この規程は、平成25年4月23日から施行し、改正後の第7条第1号の規定は、平成25年4月1日から適用する。

附 則（平成27年3月23日規第18号改正）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月28日規第64号改正）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

## 2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿 (2020年度)

|     |                                       |         |
|-----|---------------------------------------|---------|
| 委員長 | 室長 (学術資源研究公開センター 教授)                  | 藤澤 敦    |
| 委員  | キャンパス総合計画委員会 (川内キャンパス環境整備協議会 経済学研究科長) | 守 健 司   |
|     | キャンパス総合計画委員会 (青葉山キャンパス環境整備協議会 理学研究科長) | 寺 田 眞 浩 |
|     | キャンパス総合計画委員会 (キャンパスデザイン室 特任教授)        | 杉 山 丞   |
|     | 学術資源研究公開センター 准教授                      | 高 嶋 礼 詩 |
|     | 文学研究科 教 授                             | 阿子島 香   |
|     | 文学研究科 教 授                             | 柳 原 敏 昭 |
|     | 文学研究科 准教授                             | 鹿 又 喜 隆 |
|     | 文学研究科 教 授                             | 堀 裕     |
|     | 工学研究科 准教授                             | 飛ヶ谷 潤一郎 |
|     | 災害科学国際研究所 准教授                         | 佐 藤 大 介 |
|     | 施 設 部 長                               | 後 藤 勝   |
| 幹 事 | 施 設 部 計 画 課 長                         | 森 屋 昭 則 |

## 3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿 (2020年度)

|     |                         |         |
|-----|-------------------------|---------|
| 委員長 | 室長 (学術資源研究公開センター 教授)    | 藤澤 敦    |
| 委員  | 学術資源研究公開センター 准教授        | 高 嶋 礼 詩 |
|     | 文学研究科 教 授               | 阿子島 香   |
|     | 文学研究科 教 授               | 柳 原 敏 昭 |
|     | 文学研究科 准教授               | 鹿 又 喜 隆 |
|     | 文学研究科 教 授               | 堀 裕     |
|     | 工学研究科 准教授               | 飛ヶ谷 潤一郎 |
|     | 災害科学国際研究所 准教授           | 佐 藤 大 介 |
|     | 埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (特任准教授) | 菅 野 智 則 |
|     | 埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (専門職員)  | 柴 田 恵 子 |
|     | 埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (専門職員)  | 石 橋 宏   |
|     | 施 設 部 計 画 課 長           | 森 屋 昭 則 |



## 4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

《東北大学埋蔵文化財調査年報》

| 書名                | 刊行年  | 掲載内容  | 刊行主体              |
|-------------------|------|---|-------------------|
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 1   | 1985 | 昭和58年度（1983年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第1地点（NM1）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第2地点（NM2）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第3地点（NM3）  |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 2   | 1986 | 昭和59年度（1984年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 青葉山B遺跡第1次調査（AOB1）   |                   |
|                   |      | 青葉山B遺跡第2次調査（AOB2・旧称AOF）                                   |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第1次調査（AOE1）   |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 3   | 1990 | 昭和60年度（1985年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第6地点（NM6）  |                   |
|                   |      | 芦ノ口遺跡第1次調査（TM1）   |                   |
|                   |      | 芦ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査（TK）<br>研究編－東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題ほか |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 4・5 | 1992 | 昭和61年度（1986年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 昭和62年度（1987年度）事業概要  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第4地点（NM4）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第7地点（NM7）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第8地点（NM8）  |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 6   | 1993 | 昭和63年度（1988年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）  |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 7   | 1994 | 平成1年度（1989年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査委員会    |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）付帯施設部分                                    |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）調査成果の検討                                   |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点（BK5）                                  |                   |
|                   |      | 川渡農場町西遺跡第1地点（KW1）   |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 8   | 1997 | 平成2年度（1990年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第9地点（NM9）  |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報 9   | 1998 | 平成3年度（1991年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第10地点（NM10）  |                   |
|                   |      | 芦ノ口遺跡第2次・3次調査（TM2・TM3）                                    |                   |
|                   |      | 考察編－仙台城二の丸跡の考古学的調査－                                       |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報10   | 1998 | 平成4年度（1992年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第13地点（NM13）  |                   |
|                   |      | 青葉山地区分布調査   |                   |
|                   |      | 研究編－相馬藩における近世窯業生産の展開                                      |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報11   | 1999 | 平成5年度（1993年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第12地点（NM12）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第14地点（NM14）  |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第2次調査（AOE2）   |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報12   | 1999 | 平成6年度（1994年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第15地点（NM15）  |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第3次調査（AOE3）   |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報13   | 2000 | 平成7年度（1995年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第11地点（NM11）  |                   |
|                   |      | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点（BK4）                                  |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第4次調査（AOE4）   |                   |
|                   |      | 研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）遺跡出土漆器資料の材質と製作技法                       |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報14   | 2001 | 平成8年度（1996年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点（BK6）                                  |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第5次調査（AOE5）   |                   |
|                   |      | 芦ノ口遺跡第4次調査（TM4）   |                   |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報15   | 2001 | 平成9年度（1997年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター |
|                   |      | 仙台城跡二の丸第16地点（NM16）  |                   |
|                   |      | 青葉山E遺跡第6次調査（AOE6）   |                   |

| 書名                      | 刊行年  | 掲載内容   | 刊行主体                  |
|-------------------------|------|--|-----------------------|
| 東北大学埋蔵文化財調査年報16         | 2001 | 平成10年度（1998年度）事業概要<br>研究編－糖アルコール含浸法における予備実験  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査研究センター |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報17         | 2002 | 平成11年度（1999年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査研究センター     |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報18         | 2005 | 平成12年度（2000年度）事業概要<br>仙台城跡二の丸第17地点（NM17）   | 東北大学<br>埋蔵文化財調査研究センター |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報19<br>第1分冊 | 2006 | 平成13年度（2001年度）事業概要<br>芦ノ口遺跡第5次調査（TM5）<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）<br>遺構                  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査研究センター |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報19<br>第2分冊 | 2009 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）<br>陶磁器・土器・土製品・瓦   | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報19<br>第3分冊 | 2007 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）<br>木簡・墨書ある木製品   | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報19<br>第4分冊 | 2008 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）<br>その他の遺物   | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報19<br>第5分冊 | 2010 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7）<br>分析・考察  | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報20         | 2006 | 平成14年度（2002年度）事業概要<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点（BK8）<br>青葉山E遺跡第7次調査（AOE7）<br>青葉山E遺跡第8次調査（AOE8） | 東北大学<br>埋蔵文化財調査研究センター |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報21         | 2007 | 平成15年度（2003年度）事業概要<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点（BK9）<br>芦ノ口遺跡第6次調査（TM6）                        | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報22         | 2008 | 平成16年度（2004年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報23         | 2009 | 平成17年度（2005年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室          |
| 東北大学埋蔵文化財調査年報24         | 2010 | 平成18年度（2006年度）事業概要<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点（BK10）<br>青葉山新キャンパス地区試掘調査                      | 東北大学埋蔵文化財調査室          |

### 《東北大学埋蔵文化財調査室調査報告》

| シリーズ名                     | 書名  | 刊行年  | 掲載内容  | 刊行主体             |
|---------------------------|---|------|---|------------------|
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告1 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点<br>－仙台市高速鉄道東西線機能補償関係調査報告書－ | 2011 | 東西線補償関係埋蔵文化財調査の概要<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）<br>仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12）<br>川内地区の絵図記載人名の検討<br>川内地区における江戸時代の道路の復元 | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告2 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点                                  | 2013 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（BK13）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告3 | 芦ノ口遺跡第7次調査・第8次調査                                      | 2014 | 芦ノ口遺跡第7次調査（TM7）・第8次調査（TM8）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告4 | 芦ノ口遺跡第9次調査・青葉山E遺跡第9次調査－東日本大震災復旧事業関係調査報告書－             | 2015 | 芦ノ口遺跡第9次調査（TM9）・青葉山E遺跡第9次調査（AOE9）   | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告5 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点                                  | 2016 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（BK16）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告6 | 仙台城跡二の丸第18地点  | 2017 | 仙台城跡二の丸第18地点（NM18）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告7 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点<br>第1分冊                          | 2019 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学<br>埋蔵文化財調査室<br>調査報告8 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点<br>第2分冊                          | 2020 | 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）  | 東北大学<br>埋蔵文化財調査室 |



《東北大学埋蔵文化財調査室年次報告》

| 書名                   | 刊行年  | 掲載内容   | 刊行主体         |
|----------------------|------|--|--------------|
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007 | 2010 | 平成19年度（2007年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008 | 2010 | 平成20年度（2008年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009 | 2012 | 平成21年度（2009年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010 | 2012 | 平成22年度（2010年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011 | 2013 | 平成23年度（2011年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012 | 2014 | 平成24年度（2012年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2013 | 2015 | 平成25年度（2013年度）事業概要<br>芦ノ口遺跡第10次調査（TM10）                      | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2014 | 2016 | 平成26年度（2014年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2015 | 2017 | 平成27年度（2015年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2016 | 2018 | 平成28年度（2016年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2017 | 2019 | 平成29年度（2017年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2018 | 2020 | 平成30年度（2018年度）事業概要   | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2019 | 2021 | 令和元年度（2019年度）事業概要  | 東北大学埋蔵文化財調査室 |
| 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2020 | 2022 | 令和2年度（2020年度）事業概要<br>仙台城跡二の丸第19地点（NM19）<br>芦ノ口遺跡第11次調査（TM11） | 東北大学埋蔵文化財調査室 |

\* これらの刊行物は、東北大学機関リポジトリTOURおよび全国遺跡報告総覧で全て公開している。

東北大学機関リポジトリTOUR <https://tohoku.repo.nii.ac.jp>

全国遺跡報告総覧 <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja>

## 報 告 書 抄 録

| ふりがな                    | とうほくだいがく まいぞうぶんかざいちょうさしつ ねんじほうこく                               |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
|-------------------------|--|-------|--------|-------------------|--------------------|-----------------|--------|----------------------|
| 書名                      | 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告   |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 副書名                     |  |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 巻次                      |  |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| シリーズ名                   | 東北大学埋蔵文化財調査室年次報告   |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| シリーズ番号                  | 2020   |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 編著者名                    | 菅野智則・柴田恵子・石橋宏  |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 編集機関                    | 東北大学埋蔵文化財調査室   |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 所在地                     | 〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1-1                                    |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 発行年月日                   | 西暦2022年3月31日   |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| ふりがな<br>所収遺跡名           | ふりがな<br>所在地  | コード   |        | 世界測地系             |                    | 調査期間            | 調査面積   | 調査原因                 |
|                         |  | 市町村   | 遺跡番号   | 北緯                | 東経                 |                 |        |                      |
| 芦ノ口遺跡                   | みやぎけん せんだいし<br>宮城県 仙台市<br>たいほくく いちちょうめ ほか<br>太白区 一丁目 他         | 04100 | 01035  | 38度<br>13分<br>30秒 | 140度<br>51分<br>20秒 | 2020.8.24~9.4   | 231.2㎡ | 富沢団地基幹・環境整備（給排水設備）工事 |
| 仙台城跡                    | みやぎけん せんだいし<br>宮城県 仙台市<br>あおぼく かわうち<br>青葉区 川内27-1              | 04100 | 01033  | 38度<br>15分<br>24秒 | 140度<br>51分<br>1秒  | 2020.12.1~12.25 | 105.4㎡ | 川内団地基幹・環境整備（給排水設備）工事 |
| 所収遺跡名                   | 種別   | 主な時代  | 主な遺構   |                   | 主な遺物               |                 | 特記事項   |                      |
| 芦ノ口遺跡<br>第11次調査         | 集落跡  | 近代    | 近代溝跡等  |                   | 土師器（時期不明）          |                 |        |                      |
| 仙台城跡二の丸<br>第19地点        | 城館   | 近代    | 近代道路跡等 |                   | 近代磁器、ガラス瓶等         |                 |        |                      |
| 芦ノ口遺跡<br>第11次<br>要 約    | これまでの調査で認められたような縄文・古墳時代の遺構は全く確認できず、近代の溝跡から時期不明の土師器片を採集したに留まった。 |       |        |                   |                    |                 |        |                      |
| 仙台城跡二の丸<br>第19地点<br>要 約 | 近世以前の遺構・遺物は確認できなかったが、近代の道路や排水施設、仙台空襲の痕跡とそれに伴う遺物を確認した。          |       |        |                   |                    |                 |        |                      |



---

---

東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2020

2022（令和4）年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室  
〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1  
TEL 022 (217) 4995  
FAX 022 (217) 5103  
E-mail maibun@grp.tohoku.ac.jp

印刷 株式会社 東北プリント  
〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24  
TEL 022 (263) 1166

---

---